# 野口英世記念会報

## 第62号

# 目次


巻頭言……1
第59回野口英世記念医学賞……2
第59回野口英世記念医学賞を受賞して　畠山　昌則……4
野口英世記念奨学生……9
第22回野口英世博士顕彰記念少年科学賞……12
第55回野口英世博士顕彰記念作文コンクール……14
野口英世博士顕彰記念事業……17
発見された野口英世の顕微鏡写真乾板と小林譲博士
　静岡県立大学名誉教授　柳原保武……18
新しい野口英世に出会って　元朝日新聞論説委員会　西崎建策……23
学校教育で活躍したい！「野口英世」の学習
　宮城県大崎市立古川第一小学校　高橋正範……26
野口英世記念館の動向……29
「ふるさと大好き59市町村応援プロジェクト」野口英世生家前で植樹式
地方自治法施行60周年記念貨幣
子どもの日、餅つき大会
第88回野口英世命日祭
野口英世記念館が応急手当推進事業所に認定
野口英世キッズサマーセミナー開催
救世観音祭礼
第140回誕生祭
生家だんござし
生家豆まき
各地で行われたイベント……32
観光で東北を元気にする　シンポジウムにて活動報告
米国・ニューヨークで野口英世メモリアルデー89回忌式典
お座敷列車「ふるさと」で行く！呑んべぇ〝会津地酒列車〟の旅
ご当地キャラこども夢フェスタｉｎしらかわ2016
磐梯山ＳＡ　極上の会津ＰＲイベント
会津広域観光情報センター　ｉらんしょ出展
猪苗代湖ハーフマラソン2016　ＰＲブース出展
第62回菊の祭典　二本松の菊人形出展
会津フェスタ2016
ふくしまデスティネーションキャンペーン……36
第15回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」……38
特別寄稿　初めての猪苗代
　第14回　母から子への手紙コンテスト　大賞受賞者　武藤恵美子……41
野口英世記念館見学感想文コンテスト……43
出前授業に行きます！……46
2016年度の受け入れ資料……51
館内音声ガイド（無料）を導入しました……52
平成28年度　主な行事……53
平成29年度　主な行事予定……54
野口英世記念館寄付のお願い……56
野口英世記念館案内……57
表紙
　野口英世記念館広報大使・ヒディ
裏表紙
　地方自治法施行60周年記念貨幣
　「野口英世と磐梯山と猪苗代湖」のデザイン




# 巻頭言

近年世の中の激動は想定外の出来事が多く、五年前の東日本大地震を皮切りに熊本地震があり、日本国中いたる所で揺れがやまない。福島県では五年前の余震として今だに震度五弱の揺れがある。

他方国内外の政治面でも地表の動きと呼応するかの様な動きが止まらない。戦後長期政権が続いた自民党政権から民主党政権に変わり数年後また自民党と目まぐるしく変動したり、海外においてもアメリカを始めとしてキューバ、イギリス、フィリピン、韓国、ペルー、イタリア、フランスなどひろい上げたら枚挙に暇がない政権交代がなされている。

当財団にあってもここ10年の間に本部が東京から猪苗代へ、特例法人から公益財団法人へ、野口博士が千円札に登用されたり、多年の懸案事項であった収蔵庫の建設、駐車場の増設、何よりも昭和53年以降40年振りに展示館の全館改装等々、大改革が成された。

なかでも特筆すべきは当財団の奨学金制度が本年度より貸与から給付に大英断したことである。野口博士の生涯の恩師である小林栄先生の野口に向けた意志に習って優秀な学生を援助しながら、第二、第三の野口英世を発掘すべく設けられたこの制度が、先人の尊い努力のお陰で基金が確保され、名実共に本来あるべき奨学金の姿の序についた想いである。地球が常に自転している様に、世の中総て諸行無常である。願わくば新しく迎える平成29年度が当財団にとりましておだやかで落ち着いた年でありたいものである。世界にはつまらない紛争のために世界遺産や貴重な遺跡などが破壊される悲しい話を耳にすることがある。平成29年度は何人にも平和で幸せな年であることを念ずる次第である。

野口博士は望小達大という言葉を残されたが、こと平和に関しては望大達大でありたい。平和こそが文明文化を守る基でありましょう。私共の博物館にとりましてもまた然りである。

公益財団法人　野口英世記念会
理事長　八子　弥寿男

# 第59回野口英世記念医学賞

野口英世記念医学賞は、博士が生前行った研究に関係のある優秀な医学研究に対し、その功績を表彰するものです。

## 研究業績概要

ヘリコバクター・ピロリ（ピロリ）菌の発見（1982年）以来、細菌感染とがん（癌）との関連に新たな注目が集まっています。胃がんは全世界部位別がん死亡の第三位を占める悪性腫瘍です。とりわけ日本は胃がんの最多発国として知られ、毎年約12万人が新たに胃がんと診断され、5万人が胃がんで命を落とす状況が続いています。胃がんとピロリ菌との関連は、大規模疫学調査ならびに動物への感染実験等から次第に明らかにされ、現在では胃がんはほぼ全てがピロリ菌感染に起因すると考えられています。したがって胃がん発症におけるピロリ菌感染の役割解明は胃がんの新たな予防・治療法の開発につながり、学問的のみならず社会的にもきわめて重要な意義を持ちます。しかしながら、「ピロリ菌がいかにして胃がんを引き起こすのか」という重要な問題は、畠山博士の一連の研究が登場するまで未解明のまま残されていました。

ピロリ菌は自らが保有するミクロの注射針を用いて病原タンパク質CagAを宿主胃上皮細胞内に直接注入します。畠山博士はこのユニークな現象に着目し、細胞のがん化におけるピロリ菌CagAと宿主細胞側分子間の相互作用に関する先駆的な研究を展開してきました。博士は、CagAが極性制御キナーゼPAR1の抑制を介して胃粘膜の上皮極性を破壊し細胞の発がんシグナル感受性を高めるとともに、発がん性ホスファターゼSHP2の脱制御により異常な細胞増殖・運動シグナルを増強し、細胞のがん化を強く促すことを発見しました。また、ピロリ菌CagAが示す分子多型と発がん活性に深い関連があることを見出し、CagAトランスジェニックマウスの作製を通してピロリ菌CagAの発がん活性を生体レベルで直接証明しました。加えて、CagAタンパク質の結晶化に成功し、その三次元分子構造を解明しました。さらに、CagAによる細胞のリプログラムと胃がん幹細胞の関連、CagAが機能模倣する宿主タンパク質Pragminの同定、CagAが発がん標的とするSHP2新規基質Parafibrominの単離、SHP2の細胞内局在とがん抑制性Hipposシグナル間の機能的相互作用の発見、といった一連の先駆的研究を通して、ピロリ菌による胃がん発症の分子機構解明に大きく貢献しました。

一方、ピロリ菌CagAの発がん活性を抑制する宿主細胞ホスファターゼとしてSHP1を同定するとともに、約10％の胃がん症例でピロリ菌との共感染が知られているEpstein-Barrウイルス（EBV）がエピジェネティックな機構を介してSHP1の発現を抑制することを見出し、ヒトのがん発症における細菌とウイルスの協調という現象を世界で初めて明らかにしました。

畠山博士がピロリ菌CagAを基軸に進める「胃発がんカスケード」の分子レベルから個体レベルに至る独創的かつ先端的な研究は国際的にもきわめて高い評価を受けており、今後も一層の発展が期待されます。博士の研究は細菌の関与が明らかにされた初のヒトがんである胃がんの理解に多大な貢献を果たしてきたばかりでなく、細菌感染腫瘍学という新たながん研究領域を創出するものであり、野口英世記念医学賞に相応しい研究と考えます。



### 一　受賞者および研究業績

ピロリ菌感染を基盤とする胃がん発症機構の研究

東京大学大学院医学系研究科教授
医学博士　畠山　昌則

### 二　授賞式

平成28年11月5日　午後2時
野口英世至誠館

### 三　授賞式次第

（一）開式の辞　会長　髙添　一郎
（二）選考経過報告　選考委員長　山西弘一殿
（三）医学賞授与　理事長　八子弥寿男
（四）式辞　理事長　八子弥寿男
（五）来賓祝辞
　福島県副知事　畠　利行殿
　猪苗代町長　前後　公殿
　駐日ガーナ共和国大使　シルベスタ・ジュドゥ
　パポ・パーカー・アロテ殿
　東京大学生産技術研究所　特任教授　谷口　維紹殿
（六）祝電披露
（七）受賞者謝辞　畠山　昌則殿
（八）記念講演　畠山　昌則殿
（九）閉式の辞　副理事長　竹田　美文

### 四　選考委員

委員長　山西　弘一博士
委員　岩田　敏博士
委員　中西　憲司博士
委員　平山　壽哉博士
委員　藤田　禎三博士
委員　松浦　善治博士
委員　光山　正雄博士

表彰状を受ける畠山昌則博士ご夫妻

祝辞を述べる谷口維紹様

開式の辞を述べる髙添一郎会長

# 第59回野口英世記念医学賞を受賞して

畠山 昌則

この度は、第59回野口英世記念医学賞受賞という栄誉を賜り、心より御礼を申し上げます。大変嬉しく存じますと同時に、長い歴史を刻んできた権威ある本賞受賞者としての社会的責任を強く感じている次第です。申すまでもなく、この受賞は私一人の力で得られたものではなく、これまで苦楽を共にしてきた多くの研究室スタッフ、大学院生、共同研究者の日夜を違わない研究成果の賜物です。共に研究に携わってくれた皆様に深い感謝の意を表したいと思います。授賞式は、２０１６年11月5日、冷涼な空気が心地よい秋晴れの中、磐梯山と猪苗代湖に抱かれた野口英世至誠館で開催されました。髙添一郎会長、八子弥寿男理事長、山西弘一選考委員長、竹田美文副理事長以下、公益財団法人野口英世記念会の皆様、御来賓として暖かいお言葉を賜りました谷口維紹東京大学生産技術研究所特任教授（東京大学名誉教授）、畠利行福島県副知事、シルベスタ・ジュドゥ・パポ・パーカー・アロテ駐日ガーナ共和国大使、前後公猪苗代町長、ならびにご臨席いただいた皆様にこの場を借りて改めて厚く御礼を申し上げます。授賞式の終了後は会津若松市に移動し、研究室の現メンバーならびに卒業生とともに会津の美味しいお酒と郷土料理を堪能いたしました。この日は私にとって生涯忘れられない１日となりました。

私は北海道の北見市に生まれ、都会・受験戦争といったワードとは全く無縁の幼少年期を過ごしました。中学２年の時に札幌市に移り、冬季オリンピックを契機に大きく変貌しつつも自然豊かでおおらかな雰囲気が残る「北の都」で高校（札幌南高校）・大学（北海道大学医学部）と学生生活を送りました。私は二人の祖父をともに癌（がん）で失ったこともあり、小さい頃から癌という病気に漠然とした関心を持っていました。学部生時代に は北大医学部附属癌研究施設（現北大遺伝子病制御研究所）病理部門に出入りし、小林博教授（現北大名誉教授）、札幌がんセミナー理事長）・細川真澄男助教授（現北大名誉教授）のお許しを得て癌研究の真似事をしていました。卒後は、同大医学部附属病院にて１年間の臨床研修を積んだ後、大学院（内科学専攻）に進学しました。大学院では第３内科（消化器・血液内科：故宮崎 保教授）に在籍し、白血病を中心とした血液癌の治療に従事しつつ、癌細胞の免疫学的破壊を研究のテーマにしました。このテーマを追求する上で、基礎的な研究のアプローチは必須でしたので、学部時代からお世話になっていた癌研病理にて、癌細胞を殺傷するＴ細胞活性化に関する研究を始めました。小林博先生には、哲学的・社会学的な意味も含め、癌という疾患の持つ多面性、多様性、したたかさを徹底的に教えていただいたことを深く感謝しています。大

謝辞を述べる畠山昌則先生

畠山先生に語りかけながら祝辞を伝える谷口維昭先生

学院生として癌免疫の研究に関わる中、当時まさに勃興期に入っていた分子生物学的手法を用いた研究を是非進めたいという思いを日増しに強く覚えるようになりました。そこで、癌細胞の増殖を抑制するインターフェロンβならびに癌細胞破壊に直接関わるＴリンパ球の増殖因子であるインターロイキン２（ＩＬ－２）の遺伝子クローニングに次々と成功し、当時（財）癌研究会癌研究所（いわゆる癌研）から大阪大学細胞工学センターに移られたばかりの谷口維紹先生の研究室の門を叩き、大学院国内留学のような形でＴリンパ球の増殖機構に関する研究に参加させていただくことになりました。谷口先生との出会いは、まさに私のその後の人生を大きく動かすものでした。厳しくも愛情溢れた谷口先生のご指導のもと、医学・生物学研究における分子生物学的アプローチの底知れないパワーをまざまざと実感しながら、藤田尚志先生（現京都大学ウイルス研究所教授）、山田源先生（現和歌山県立医大教授）以下多くの才気溢れた仲間とともに幾多の素晴らしい研究成果をあげることができました。なかでも、１９８９年、激烈な国際競争の中、世界に先駆けてヒトＩＬ－２受容体β鎖の遺伝子クローニングに成功した時は、研究者としてまさに至上の喜びに浸る瞬間でした。ＩＬ－２によるＴリンパ球増殖機構の分子生物学的研究が深まるにつれ、より一般的な細胞増殖シグナルの異常と細胞癌化との関連、とりわけこのスキームの中にようやく実態がわかってきた癌抑制遺伝子（癌抑制タンパク質）をどのように位置づけるのか、という疑問に強い興味を抱くようになりました。そこで、世界初のヒト癌遺伝子Ｒａｓの単離、世界初のヒト癌抑制遺伝子Ｒｂの単離で知られる米国マサチューセッツ工科大学（ＭＩＴ）ホワイトヘッド研究所のワインバーグ（Robert A. Weinberg）博士のもとに留学する機会をいただき、Ｒｂ癌抑制遺伝子の機能制御にかんする研究に従事することができました。ワインバーグ博士は癌の分子生物学的研究の世界的リーダーであり、普段はウィットとジョークに富む気さくな人柄の博士が、ひとたび研究者モードに入った時に示す途方もない知性と創造力には驚愕しました。とりわけ、一見全く関連がないように思える複数の事象を直感的に結びつけ、そこに凡人の想像の域を超えた可能性を見出す力はまさに「天才」そのものだと思いました。ワインバーグ研での研究成果を要約すると以下のようになります。細胞はＲｂという細胞増殖の強力なブレーキ分子を保有しており、そのために細胞の増殖は抑制されています。ＩＬ－２のような細胞増殖因子が活性化する細胞内シグナルは、リン酸化という化学修飾を介してＲｂのブレーキ機能を不活化し細胞分裂を誘導します。一方、様々な機序により

駐日ガーナ共和国大使
シルベスタ・ジュドゥ・パポ・パーカー・アロテ様と畠山昌則先生

周囲の先生方に支えられ、何とかＲｂ関連の研究を前進させることができました。

さて、今回の私の受賞テーマは「ピロリ菌と胃癌」です。ＩＬ－２、Ｒｂと研究を進めてきた私が、突然ピロリ菌研究を始めた経緯を少し述べたいと思います。癌研に移って４年を過ぎた１９９９年、北大免疫科学研究所（改組により２０００年より北大遺伝子病制御研究所に名称変更）から教授のオファーをいただきました。しばらく癌研と北大の併任ということで東京と札幌を行き来する日々が続きました。この間、消化管関連の研究会に呼ばれる機会がありました。私はそこでＲｂ癌抑制遺伝子の機能制御に関する講演を行ったのですが、同じ研究会に参加していた福井医大消化器内科の東健先生（現神戸大学消化器内科教授）が、「ピロリ菌が産生する病原タンパク質ＣａｇＡが胃の上皮細胞内に直接侵入する」、という研究成果を発表されたのです。東先生のお話を伺った瞬間、私はこのＣａｇＡがピロリ菌と胃癌を繋ぐ分子であることを確信しました。当時ヒトに癌を引き起こす細菌の存在は知られていませんでした。

一方、前述した通り、ある種の癌ウイルスは自らが産生する癌タンパク質を用いて癌抑制に関わるＲｂやｐ53といった重要な分子の細胞増殖抑制効果を中和し、細胞癌化を促すことが知られていました。私の頭の中では、宿主細胞内に侵入したピロリ菌ＣａｇＡもＲｂやｐ53と結合・不活化して胃癌発症を誘導することが自明のことのように思えたのです。早速、東先生にこのアイデアをお話し、共同研究を始めました。研究開始後数ヶ月間はＣａｇＡとＲｂ（あるいはｐ53）間の複合体形成検出に没頭しましたが、何度試みても結果はＮｏでした。結局、私の最初の直感は正しくなかったのです。しかしながらこの研究を進める過程で、ピロリ菌ＣａｇＡと結合する宿主細胞タンパク質として発癌性ホスファターゼとして知られるＳＨＰ２が単離されてきました。この発見がピロリ菌発癌研究の大きなブレークスルーとなったわけです。北大時代から現在の東京大学に至るまで、その後の研究は「研究業績概要」に書かれている通りです。１９９９年に私が研究を開始した頃は、研究者の多くは胃癌におけるピロリ菌の役割には懐疑的でした。例えピロリ菌が胃癌に関連していたとしても、その関与は「使い走り」程度であり、「真の黒幕・真犯人」と考える研究者はほとんどいなかったと思います。２０１７年の今日、ほぼ全ての胃癌はピロリ菌感染を基盤に発症することが明らかにされています。これは医学における大きなパラダイムシフトであり、細菌感染癌という新たな癌の研究分野も樹立されつつあります。このように私の中では、ＩＬ－２による細胞増殖シグナルの研究（阪大）、Ｒｂ癌抑制遺伝子の研究（ＭＩＴ、癌研）からピロリ

左から畠利行様、シルベスタ・ジュド・パポ・パーカー・アロテ様、前後公様、畠山昌則様、八子弥寿男理事長

菌ＣａｇＡの研究（北大、東大）にいたる流れは一つの文脈の中で繋がっています。振り返るに、研究者にとって人との出会いがいかに大切か、ということが思い知らされます。また、正誤に拘らず自らの直感を盲信することが時に大きな発見につながります。このような直感がセレンディピティー（＝努力してきた者にのみ神（天）が与えてくれる幸運）の本態なのかもしれません。

授賞式のご挨拶でも少し触れましたが、私のこれまでの人生の中で野口英世博士との明確な接点が３回ほどありました。第一の接点は、まだ北見市に住んでいた小学校低学年の頃です。夏休みに東京へ向かう途中、当時福

授賞式の様子

島市に住んでいた叔母夫婦の家に立ち寄りました。その時に、叔母夫婦に連れて行ってもらったのが野口英世記念館でした。当時の記念館は現在のような立派な建物ではなく、博士の生家と隣接した小さな資料展示室だけだったような記憶があります。昭和の子供たちにとって、野口博士は伝記を通してよく知られた近代日本の偉人の一人でした。とりわけ、北海道の田舎でまだ見ぬアメリカに思いを馳せていた私にとって、ニューヨークを拠点に国際的な活躍をされた野口博士は憧れを抱く存在でした。この記念館を訪れたことで、科学の力が社会に大きなインパクトを与えることを知り、科学者として世界に躍り出る自分に思いをはせたような気がします。医学部に進学する動機付けのどこかに、この体験が影響を与えていたのかもしれません。野口博士との第二の接点は、私が大阪大学での研究を開始した１９８５年です。この年は、日本のプロ野球が２リーグ制に別れて以降、阪神タイガースが初めて日本シリーズを制覇した年ですが、まだ30代後半の谷口先生（大阪神ファン）が「生体防御に関与する液性因子の遺伝子構造と発現の研究」で第29回野口英世記念医学賞を受賞された年でもありました。当時、東京（新宿区大京町）にあった野口英世記念会館での授賞式に研究室メンバーとともに参列し、谷口先生の受賞を皆でお祝いすることができました。その際、そうそうたる歴代受賞者のお名前を拝見し、谷口先生のお名前が加わったことを大変誇らしく思ったものです。第三の接点は、米国留学中になります。当時、ロックフェラー大学のボルチモア（David Baltimore）博士のもとに留学していた藤田尚志先生を訪れた際、大学構内にある野口博士の胸像と対面しました。アメリカで日本人研究者がこのように讃えられている例を私は知りません。感染症撲滅に向け、研究者としての全エネルギーを注ぎ込んだ博士の壮絶な人生と小学生時代に訪れた猪苗代湖の簡素な生家が脳裏で交錯し、深い感慨を抱くとともに、博士と同様に米国で研究を行っている自分を鼓舞する格好の機会となりました。なお、藤田先生は２０１４年に「細胞質ウイルスセンサーＲＩＧ－Ｉファミリーの発見とその機能解析」により第57回野口英世医学賞を授賞しており、谷口研究室からは計３名の受賞者が輩出されたことになります。

二十一世紀に入り、理系の日本人ノーベル賞受賞者が毎年のように誕生する状況が続いています。はたして、１００年前にノーベル賞医学・生理学賞の候補となっていた野口博士はこの状況をどのように感じているのでしょうか。多くの識者が指摘するように、今の日本では将来のノーベル賞受賞につながる独創的な基礎研究をじっくり進める環境が確実に減少しています。産と学の連携が強く

記念講演の様子

求められ、経済活動に直接還元できる応用研究が重宝がられる雰囲気が充満しているからです。超高齢化と人口減少が同時に始まっている我が国では、将来を担う若手基礎研究者層の先細り・空洞化も大きな問題になりつつあります。短期的には、出口志向に偏りすぎた国の研究費配分の是正や若手・女性研究者の研究環境の改善、独立支援の拡大が重要です。より長期的には、物質資源が少なく自然災害の多い我が国にとって、基礎科学の力が極めて重要な社会資源・文化であるという理解を深めることが肝要だと思います。そのための特効的な処方箋があるわけではありませんが、先日発表された「おとなになったらなりたい職業」ランキング（幼児・児童）で「学者、博士」がサッカー選手について第2位（男子）にランクされたことは注目に値します。この異変（？）はノーベル賞受賞ラッシュが影響していると論評されていましたが、多くの子供達が利害打算とは無関係に「目の前に横たわる大きな謎」に挑戦し解き明かそうとする研究者の姿に本能的な憧れ／シンパシーを感じ取っていることには勇気づけられます。大人になるにつれ、この純粋で崇高な志を疲弊・磨耗させてしまう現代日本社会のシステムを改める必要があります。物質的には相応に満たされたこの社会において、新しいサイエンスを創造するタフでエネルギッシュな若手人材をいかに育て上げていくかは、私たち研究者に課された大きな課題です。この課題解決を図る上で、貧しさと身体的ハンディキャップをバネに感染症という人類の大敵に挑み、人類に大きな福音をもたらした野口博士は、この上ないロールモデルとなります。この重要性をいち早く認識し、博士の生涯と業績を生き生きと伝えることで、若者のサイエンス離れに歯止めをかけるべく真摯なアウトリーチ活動を続けておられる野口英世記念会の皆様の先見の明に改めて深い敬意を表したいと思います。

最後になりましたが、野口英世記念会の一層のご発展を心より祈念いたしますとともに、猪苗代町、福島県の皆様には今後も同記念会への力強いご支援を賜りますようお願い申し上げます。また、私が医学研究者になることを誰よりも強く応援してくれた両親ならびに研究者としての私の人生を二人三脚のように支えてくれた妻と子供達にこの場を借りて感謝いたします。この度は誠にありがとうございました。

第 59 回野口英世記念医学賞特別展示



# 野口英世記念奨学生

**野口英世記念奨学生制度は、有為な人材を育成し、良き社会人として世に送る目的で、高等学校に在学する間の学資金の給付を行う制度です。平成29年度の第59期奨学生は、奨学生選考委員会の推薦を受け、次の5名に決まりました。**

## 「高校生活への期待」

会津若松ザベリオ学園中学校
齋藤（さいとう） 水咲（みさき）

高校生活を迎えるにあたって私は、勉強のことや友人関係など、さまざまな思いをめぐらせています。

私の将来の夢は国や人々の役に立つ仕事をすることです。そのために私は高校で勉強を頑張り、しっかりとした学力を身に付けることは勿論、ボランティアなどに積極的に参加し、多くの人と交流することにも力を入れたいです。そして、今とは異なる世界に触れ、新たな発見をすることで更なる精神の成長につなげることができたらいいと考えています。

新しい高校生活、どのような人と出会い、どのような出来事があり、どのように成長するのか、未知であり、不安もあります。しかし、その不安にうち勝てるくらい明るく前向きに、目標に向かってこれからも励んでいきたいです。

## 「将来の夢」

中島村立中島中学校
田沢（たざわ） うらら

私は将来外科医師になりたいと幼いころから思っています。きっかけは、テレビで放送された医療特集です。その中でも、脳外科のある先生に特に興味を持ち、インタビューで言っていたことがとても心に残っています。

「私は、人の命を救うだけでなく、その人の夢や、これからの未来の手助けをしているんです。」この言葉で、私もこのような医師になりたいと思うようになりました。セミナーや医学教室にも参加し、医学に関する知識を深めている途中です。外科医師になるには、どのような技術、資格、気持ちが必要なのか、病の原因をいち早く見極め、正しい判断、処置、対応できるようになるにはどのようにすればよいのかなど、沢山の事を医師や看護師、技師の先生方から教えていただきました。

自分の夢は自分でつかみとるもの。自分のできることを精一杯やって、自分の夢である外科医師になれるよう、努力していきたいです。

## 「高校生活に向けて」

猪苗代町立猪苗代中学校　西山（にしやま）　耕助（こうすけ）

私は、勉強が好きです。本を読むことが好きなので、知識を深めることが好きといった方が良いかもしれませんが、どちらにしても、私にとっては机に向かっている時が一番楽しい時間です。だからこそ、私は将来教師になりたいと思いました。

教師は自分が身に着けた知識を若人達に教え、給料をいただき、またそのお金で本を買い、知識を深める。私にとっての天職だと思いました。

これから中学校を卒業し、高校へと進みますが、高校では夢に向けて、更に勉学に励みたいと思います。高校の授業はとても難しいでしょうが、その難しいことにチャレンジすることを楽しみに思います。必ず高校での学習内容を修得して、将来の糧にしたいと思います。

これから先、辛いこともあると思いますが、野口英世博士のように「忍耐」の心で頑張りたいと思います。

## 「高校生活への期待」

須賀川市立第二中学校　松川（まつかわ）　未悠（みゆう）

この度は野口英世記念奨学生に選出していただきありがとうございます。

高校では、小・中学校で学習したことをより深く学びたいと考えています。高校卒業後、英語が体得できる国際教養大学へ進学し、天体に興味があるので将来は、宇宙開発機構に勤めたいと思っています。そのために高校では地学と英語の二課目により力を入れたいです。

また三年間の中で、勉学はもちろん、部活動や多種多様な人々の出会いなどから得られるものは、とても多いと思います。沢山の人に出会い、沢山のことを吸収したいと思っています。

これからの高校生活への期待は膨らむばかりです。頂いた奨学金を最大限に活用し、自分自身の知識の幅を広げられるような高校生活にしたいと思います。

## 「高校生活への抱負」

福島市立福島第四中学校　渡部（わたなべ）　水悠（みゆ）

この度は、野口英世記念奨学金を頂けることになりとてもうれしく思います。このチャンスを生かし、より有意義な高校生活を送り、将来の夢の実現のため頑張っていきたいです。

私が高校生になって特に頑張りたいことは英語です。初めて中学校で英語を勉強したとき、私は英語の面白さや奥深さにとても感動しました。勉強を重ねていくうちにその思いは強くなり、「もっと英語を勉強したい」と思うようになりました。そこで英会話を習うことを考えましたが、当時は断念せざるを得ませんでした。しかし、この奨学金を頂けることになった今、私はもう一度挑戦したいと思います。より深く英語を学び、将来に役立てていきたいです。

この奨学金のおかげで、今まで以上に英語を勉強できることに喜びを感じています。この機会を無駄にしないよう、勉強はもちろん部活動などにも力を入れ、実りある高校生活を送れるように頑張っていきたいです。



# ○第54回奨学生懇親会

**平成28年8月6日（土）午前11時半より**
**レイクサイドホテルみなとやで開催しました。**

**一、出席者**

**奨学生**（13名・数字は期別）

1 杉本　富夫　　5 小野　秀幸
11 本多　香津子　　18 神田　和幸
37 石原　正樹　　53 棚邊　幸代
58 二瓶　美友　　5 湯田　永八
28 塚本　貢市　　35 金作　昌弘
54 星野　賢一　　57 山本　菜津子

**記念会**　八子　弥寿男　　竹田　美文　　長田　朋恵　　石田　寛人

**二、懇親会**

**（1）一部**

ア　開会の辞
イ　挨拶　理事長　八子　弥寿男
ウ　記念品贈呈　奨学金完済者　6名　高等学校卒業者　10名

**（2）二部**

ア　挨拶・乾杯　奨学生代表　杉本　富夫
イ　会食・懇談
ウ　自己紹介・近況報告
エ　カワセミ水族館の見学
オ　天鏡台見学
カ　閉会の辞

カワセミ水族館にて

## 奨学生短信より

●仕事を整理してから2年あまり。今までできなかった事を思い切り実現させています。ゴルフ、長期の旅行、歴史や仏像の勉強、色々なことを始めています。今年は67歳になります。
（7期・関根　徹夫）

●61歳になりましたが、シニアスタッフとしてまだ働いております。65歳まで頑張るつもりです。参加できず、すみません。
（13期・宮元　秀実）

●熊谷支店に転勤となり早1年3ヶ月、元気でおります。昨年は書の世界でも大きな賞をいただき、充実した日々に感謝しております。
（26期・萩原　彰子）

●週末は子どものスポーツ少年団の対応で忙しいですが、子どもたちの成長を日々肌で感じております。
（28期・渡辺　正樹）

●約9年間、ロケットや衛星に搭載される部品を作ってきましたが、6月に部署が変わり今は光学式読み取り装置の部品を作っています。
（42期・勝山　光）

●グラフィックデザイン系の会社で仕事をしています。自分の目標に向かって頑張っています。
（46期・澤村　薫）

●子供が産まれました。親としての責任を感じつつ、毎日を楽しく過ごしています。
（51期・川井　悟史）

# 第22回野口英世博士顕彰記念少年科学賞

野口英世博士生誕の地、猪苗代町の小中学校より募集する野口英世博士顕彰記念少年科学賞は第22回を数えました。今回は、小学生134点、中学生21点、計155点の研究作品が出品されました。

**本年度の入賞作品は左記の通りです。おめでとうございます。**

最優秀賞「水辺の環境、長瀬の今を知る」～生き物の生息をとおして～
長瀬小学校　5年　小澤　優真
　　筑井　雅子
　　國井　結以
　　長谷川琴音

最優秀賞　光の屈折　物質の屈折率を調べよう　猪苗代中学校　2年　小野木滉馬
優秀賞　わたしのいえのまわりのはる　猪苗代小学校　1年　小林　花帆
　　めだかのけんきゅう　吾妻小学校　2年　鈴木　理心
　　ぼくの町の大切な水の調査　猪苗代小学校　3年　小林　久也
　　酸川と長せ川をたどる　吾妻小学校　4年　鈴木日奈子
　　紫外線を防ぐ方法　猪苗代小学校　6年　髙木　沙也
　　汚れ落としの研究　猪苗代中学校　1年　菅野　実咲
　　甘いトマトの見分け方～野菜や果物の糖度の研究～　東中学校　2年　大坂　憲裕
　　身近な川の水質を調べてみよう　吾妻中学校　2年　藤田　愛花
　　酸性雨がもたらす自然環境への影響とは　東中学校　3年　渡部　拓真
　　かわには　なにがすんでいる　吾妻小学校　1年　遠藤　優珠
　　よくとぶ紙ひこうきをさがせ　吾妻小学校　2年　大桃　匠
佳作　あさがおのせいちょう　日なた日かげをくらべてみよう　長瀬小学校　2年　鈴木　心彩
　　場所によって時間のさはあるのだろうか　翁島小学校　2年　喜多見叶暖
　　かぜはどうして　長くなる？　翁島小学校　3年　楠　凌我
　　水をキレイにする方法！　緑小学校　4年　渡部　響子
　　植物の葉の付き方調べ　翁島小学校　5年　遠藤　大生
　　猪苗代湖のヒシ　千里小学校　5年　古川　来実
　　液体の水面の力を調べよう！　緑小学校　5年　佐藤　萌音
　　水の研究　千里小学校　6年　堤　聖也
　　朝顔の観察　朝顔の花の色は土で変わるのか？　吾妻小学校　6年　藤田　瑞樹
　　最強の電池を作れ！　緑小学校　6年　渡部菜々子

最優秀賞
「光の屈折　物質の屈折率を調べよう」

最優秀賞
「水辺の環境、長瀬の今を知る～生き物の生息をとおして～」



最優秀賞を受賞した小野木滉馬さんと小澤優真さん、筑井雅子さん、國井結以さん、長谷川琴音さんに受賞後の感想をお聞きしましたのでご紹介します。

**中学校の部　猪苗代中学校 2年生**
**小野木　滉馬 さん**

虹や蜃気楼など、光の性質によって起こる自然現象に興味を持ち、僕達の身近な生活の中に存在する「光の屈折」について調べてみようと思ったのが、この実験のきっかけでした。

物質の屈折についていろいろな実験をしてみましたが、どの実験も楽しく出来、また不思議に思う事もあり、次回の課題も見つかりました。

「光の屈折」の実験だけでなく、僕達の生活の中では、不思議に思う事やわからない事があります。これからも沢山出てくると思います。どんな小さな事でもひとつひとつ、それをそのままにせず「どうしてそうなるのか」と少し考えるだけでも「わからない」まま通り過ぎるより、自分の経験になり視野を広げられるようなそんな気がします。

今回の受賞を励みに、いつまでも探求心を忘れずにこれからも頑張っていこうと思っています。ありがとうございました。

**小学校の部　長瀬小学校 5年生**
**小澤　優真 さん**
**筑井　雅子 さん**
**國井　結以 さん**
**長谷川琴音 さん**

私たちが、この研究を通して一番実感したことは、「私たちの住む長瀬は、人にも生物にも生きるために優しい環境である。」ということでした。研究を進めている間、台風や大きな天候変化等による様々な環境変化がありました。実際に水の恐ろしさも感じました。しかし、どんなに変化があろうと、様々な生き物がその中で生きていたこと、水辺にある人々の工夫が私たちの生活を守ってくれていたことを発見しました。人々の努力や生き物の生命力のすばらしさを感じることができました。

私たちの研究は、町の人々が水辺の環境を守っている努力に比べるとほんのわずかなものなのかも知れませんが、私たちにできること「今を知ること（学習して分かること）」を今後も続けていきたいと思います。

長瀬小学校５年生
筑井雅子さん、小澤優真さん、長谷川琴音さん

猪苗代中学校２年生　小野木滉馬さん

# 第55回野口英世博士顕彰記念作文コンクール

**猪苗代町内の小中学校から作品を募集する「野口英世博士顕彰記念猪苗代町小中学校児童・生徒作文コンクール・野口英世博士に関する作文」の授賞式が、11月9日、野口英世至誠館にて挙行されました。**

**毎回、博士への想いが詰まった作文が多く寄せられます。授賞式では、特選を受賞された吾妻小学校4年鈴木日奈子さん、猪苗代中学校2年小板橋梨音さんが、作文を朗読しました。**

特選

## 感謝の気持ちを持って

吾妻小学校4年　鈴木　日奈子

「なんで最初からあきらめるの。結果なんてやってみなけりゃわからないでしょ。」

母のものすごいいきおいに、わたしは、はっとした。

わたしは、小さい時から、スキーをやっている。クラブの練習に休まずに参加し、クラブの練習が終わってからも、リフトの営業時間ぎりぎりまで練習をした。それでも、レーシングチームに入っている子たちには勝てなくて、いつもくやしい思いをしていた。だから、あの日の大会の朝も、母から、

「日奈子、がんばってね。」

と声をかけられた時、

「どうせ、あの子達には、勝てっこないし。」

と始めからあきらめた言い方をしてしまったのだ。母の強い言葉はわたしの心にぐっとひびいた。

英世も、幼いときにてんぼうといじめられ、学校に行きたくないと母に弱音をはいた。その時に英世の母は、「そんなこと言うやつに負けているから、いつまでもばかにされるんじゃ。なんで勉強でまかしてやろうと思わないんじゃ。」という強い言葉で、甘えていた自分の心に気付き、勉強をがんばるようになったのだ。

さらに、貧乏だからとあきらめていた高等小学校への進学も、小林先生の助けによって実現した。動かない左手の手術も、友達がお金を集めてくれたおかげで、受けることができた。

**野口博士に関する課題作文の部**

〈小学校の部・4年生〉

| | | |
|---|---|---|
| 特選 | 吾妻小学校 | 鈴木日奈子 |
| 金賞 | 猪苗代小学校 | 中田ことは |
| | 翁島小学校 | 古川　唯斗 |
| | 猪苗代小学校 | 大東　洸人 |
| 銀賞 | 千里小学校 | 笠間　泰世 |
| | 長瀬小学校 | 鈴木　愛琉 |
| | 緑小学校 | 渡部　響子 |

〈中学校の部〉

| | | |
|---|---|---|
| 特選 | 猪苗代中学校 | 小板橋梨音 |
| 金賞 | 東中学校 | 佐藤　天音 |
| | 猪苗代中学校 | 遠藤　花 |
| 銀賞 | 猪苗代中学校 | 菅沼　朱響 |
| | 吾妻中学校 | 藤田　愛花 |



英世は、できないとあきらめることなく、努力し続けて、世界的にも有名な医者になることができた。でも、英世が成功したのは、英世の努力だけではなく、まわりの人のたくさんの支えがあったからだ。

スキー大会の日、母からの言葉で目がさめたわたしは、いつもの大会とはちがった気持ちでスタートし、すごく速いタイムでゴールした。わたしはますますきんちょうした。でも、朝のようなあきらめた気持ちではなかった。「勝つぞ。」という強い気持ちでわたしはスタートした。ゴールまではあっという間だった。順位の発表の紙が貼り出されたとき、わたしの名前が一番上にあった。わたしはとび上がるような気持ちで母の所まで走って行った。「あきらめずにがんばってよかった。」わたしは心の中で何度もさけんだ。わたしが、大会で勝つことができたのは、家族の支えがあったからだ。いつもすべりのアドバイスをしてくれ、夜おそくまでワックスをかけてくれた父。練習のたびにお弁当を作ってくれて、わたしを本気でしかってくれた母。わたしは、本当に感謝したいと思った。

英世は、まわりの人に支えられていたから、努力し続けることができた。わたしも、支えてくれる人がいることを忘れないようにしたい。そして、支えてくれる人への感謝の気持ちを持って努力し続けたいと思う。

特選

## 野口英世博士を見て

猪苗代中学校2年　小板橋　梨音

野口英世博士、まず、この町で知らない人はいないだろう。誰もが尊敬する、ここ猪苗代町の偉人だ。それだけではない。博士は日本の千円札の肖像画になり、また、生涯において多くの国を回り、世界的な研究をしたことによって、世界的にも有名な医者である。

しかし、博士の人生は全然甘いものではなかった。一歳半の時に囲炉裏に落ちて左手に大火傷を負った。家が貧しかったせいで治療はできず、指がくっついてしまった。母シカは、農業ができない博士に学問しかないと、博士を学校に通わせた。だが、手のことで「てんぼう」といじめられた。そんな中でも、博士は必死に勉強し、成績は優秀だった。

博士が医学の道へと進んだのは博士が十五歳の時に書いた作文がきっかけだった。そこには自身の左手の障がいについて書かれていた。その作文に先生や同じ学校に通う人たちは心を奪われ募金に協力し、そのお金で会津若松の渡部鼎先生に手術してもらった。まだ不自由ではあったものの、動く自分の手に医学の素晴らしさを感じ、医学の道へと進んだのだ。

私は、博士の、何があっても負けず、弱音なんて決して吐かないところが好きだ。研究をするにあたって、寝ない日もあり、アメリカ人に「日本人はいつ寝るのだ?」と言われるほどだった。博士はそんなに熱心に勉強に励み、研究し、いじめに負けず、研究が上手くいかなくても弱音を吐かず、分かるまでやり続けた。だからこそ、様々な研究を成し遂げ、世界で活躍する人にまで成長したのだろう。そんな博士の心は、博士が残した「目的」「正直」「忍耐」の「忍耐」に当たるのではないだろうか。「忍耐」とは苦しさ、辛さなどを耐え忍ぶことで、要するに「我慢」だ。私はそんな博士の我慢強いところを学びたい。

私は今、部活に勉強に忙しい。部活では、夏は走って冬はスキーをする。とても楽しいことだけど、大変だ。だけど、勉強と両立できるように努力している。きっと博士は勉強を人の何倍もしていた

ことだろう。それだけで大変だったはずだ。でも、それを乗り越えた。その努力が大人になって報われたのだと思う。だから、私も、今できることを全力でやり、今努力したい。そうすれば部活でも、勉強でも、必ず良い結果がついてくると思う。そう信じて、毎日の二十四時間しかない時間を無駄にせず、頑張りたいと思う。

そんな博士の活躍の背景で、大きな支えとなったのは母シカではないかと思う。貧しくても火傷して家を継げない博士のために懸命に働いて学校に通わせ、立派な偉人へと育てあげたからだ。母には博士の火傷を負わせてしまった責任感があったのだと思う。だからこそ、博士に対する思いは大きかったのではないだろうか。それは、母が博士に送った手紙からも分かる。無学の母が、博士のために勉強して手紙を書いたのだ。今で言ったら、外国語で手紙をかいているようなものだ。それほど一生懸命で息子想いの母シカを、私はとても尊敬している。博士も朝から晩まで働く母を見て育ったのだから、恩返ししたいという気持ちがあったと思う。そして、博士が有名になれたのは、立派な母のおかげだと思う。

ところで、博士のある名言を知っているだろうか。

「私は少しも恐れるところがない。私はこの世界に、何事かなさんがために生まれてきたのだ。」

この言葉から、博士が辛い過去も、先にある厳しい未来も恐れることなく、大きな課題に前向きに立ち向かう博士の姿が目に見える。私は博士の、過去を何一つ気にしていないこの言葉に、強く心を打たれた。

「言い訳なんてつけてはいけない」そう思った。

博士の医学で救われて感動した思いから始まった医学への道。もし、火傷をしなかったら、作文を書かなかったら、母がシカさんではなかったら、博士は医学の道を歩まなかったかもしれない。博士の、日本、いや世界中の人々を、自分を犠牲にしてでも助けたいという思いは、そこで途切れることなく、今に受け継がれ、医療が発展してきたのだろうと思う。

また、博士は猪苗代町にも良い影響を及ぼした。この町を、観光地にしてくれた。博士に憧れて日本だけではなく、世界からも人が集まる。リニューアルした野口英世記念館は、博士の生涯が、とても分かりやすい他、細菌に関するゲームもあって、小さい子供でも楽しく博士の歩んだ医学の道について学べる、良い場所だと思った。まだ、博士について知らない日本人も多い。新しくなった記念館から博士についてを発信し、より多くの人に博士を知ってもらいたい。

博士を見て、私も人の役に立ちたいと思ったし、博士はこの町の誇りであり、自慢だ。

猪苗代中学校２年　小板橋　梨音さん

吾妻小学校４年　鈴木　日奈子さん



# 野口英世博士顕彰記念事業

## ～躍動する博士の後輩たち～

野口英世生誕の地、猪苗代では「二十一世紀の国際社会に生きる世界の平和繁栄に貢献できる日本人」を期待し、地元の子どもたちにスポーツや文化行事を通じ、野口博士の精神である「忍耐・努力」を培うことを目的とし、長年、顕彰事業を催しています。

主催は猪苗代町教育委員会並びに猪苗代町校長会、後援が公益財団法人野口英世記念会です。猪苗代町内の３校の中学校と近隣の招待校の児童、生徒たちにより熱戦が繰り広げられました。

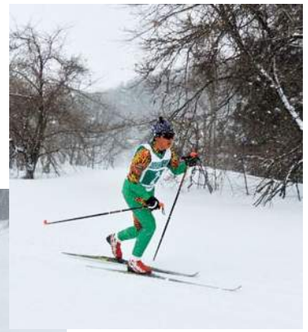
平成28年度も５月の中学校球技大会に始まり、２月の小学校スキー大会で無事終了となりました。

来年度も益々の活躍を期待します。

中学校球技大会　５月７日　バレーボール

小学校体育祭　９月13日

小中学校音楽祭　10月６日



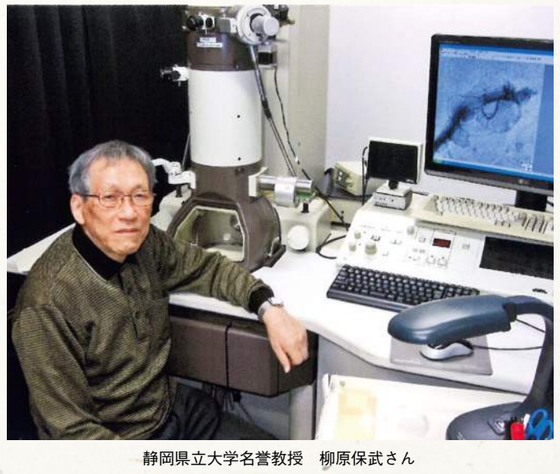
小学校スキー大会
２月７日

# 発見された野口英世の顕微鏡写真乾板と小林譲博士

静岡県立大学名誉教授　柳原　保武

二〇一五年秋、野口英世がロックフェラー研究所時代に観察、撮影した学術的に非常に貴重な顕微鏡写真のガラス乾板三千枚超が、猪苗代町の野口英世記念館に保存されていることが明らかになった。そして、二〇一六年三月には、ガラス乾板発見が、共同通信の配信で、その中の一枚の写真とともに、福島民報、福島民友を始め、京都新聞、徳島新聞などの全国の新聞で紹介された。野口英世記念館に特別展示された原板のガラス乾板を観て、百年以上前に撮られた鮮明な写真に私は衝撃的な感動を覚え、興奮は今日にいたるも続いている。最も感動的なことはこの乾板（患者F．B.）の顕微鏡視野の余白にGen. Paralysis in Brain. sec.（進行麻痺患者大脳切片）Trep. Pallid.（梅毒トレポネーマ）、1731（試料番号）、12・23・'12（日付）、X1100（倍率）、Noguchi の書込みがあり、J. Exp. Med.（Noguchi and Moore, 1913）に掲載された、野口の梅毒研究における最も重要な発見の原板写真であったことである（写真1）。七十名の進行麻痺あるいは脊髄癆で死亡した患者から作製した切片標本は少なくとも一万数千枚の膨大な数に上り、観察は夏も冬も続いていたと思われる。このうち上記F．B.ら十二名の切片標本に梅毒トレポネーマを発見し、末期梅毒における精神病症状との関連を証明して精神医学の新たな展開に大きく貢献した。正に画期的な業績である。論文の共著者のMooreやFlexnerには〝後〟に確認してもらったと注記しているが、野口はクリスマス休暇もなく自宅で顕微鏡観察に没頭し、深夜、トレポネーマを発見、欣喜雀躍、早暁五時にFlexnerを起こして自宅に連れ帰り、顕微鏡で覗いて共に興奮し、喜んだ。ただ、切片標本に梅毒トレポネーマ発見の時期について

写真1
進行麻痺患者大脳切片の顕微鏡写真（部分）
梅毒トレポネーマの鮮明な画像と日付 1912年12月23日
倍率 1,100 倍、Noguchi などの記載あり
（公益財団法人野口英世記念会提供）



静岡県立大学名誉教授　柳原保武さん



は夏の暑い日であったとする伝記や小説もあるが、定評のあるPlessetの伝記「野口英世」（中井・桝矢訳、星和書店）には「一九一二年のある夜……明け方近くスピロヘータを発見した」とあるのみで明確な時期の記載はない。トレポネーマ発見の時期を特定するには日付12・23・'12が記入された十二番目の患者F．B.以前の11名の切片標本について検証する必要がある。上記論文にトレポネーマ陽性患者十二名全員の氏名（イニシアル）と病歴を記載し最後十二番のF．B.の切片写真をトレポネーマ発見の証拠として掲載して組織切片におけるトレポネーマ存在の証明研究に区切りがついたと考えられる。そこで、ロックフェラー研究所長Flexnerが編集長を務めるロックフェラー研究所発行のJ.Exp.Med.に発表を急ぎ、一九一三年一月一一日受理、一九一三年二月一日発行されたものと推察する。

写真2．小林譲愛媛大学名誉教授
1926～2008年

ところで、今回発見の野口遺品の由来には一九五九年（昭和三四年）当時九州大学医学部第一内科講師の小林譲博士（写真2．後に愛媛大学名誉教授、一九二六～二〇〇八年）が深く関わっている。小林先生は黄熱の研究で一九五一年ノーベル賞を受賞したロックフェラー研究所のMax Theiler博士の研究室に一年間、次いでリケッチャ研究の大家ハーバード大学John C. Snyder教授の研究室に一年間留学し、その間にロックフェラー研究所と折衝、日本への移管に尽力され実現したもので、小林先生が滞米中の一九六〇年九月中旬に博多港に届いた。写真乾板、フィルムなど荷物は550kgであったとされているが（九州大学新聞、一九六〇・一〇・二五）、内容の詳細は分からない。筆者はワイル病（黄疸出血性レプトスピラ病）病原体の研究を通じて一九六〇年代初頭から小林先生の知遇を得、毎年、日本レプトスピラ研究会でお会いする機会があり、いろいろとご助言、ご教示を賜ってきた。その中で、ロックフェラー医学研究所から野口英世の遺品を日本に移管されたと聞いていたが、今年三月、竹田先生の格別のご高配でその存在を知り、五月その貴重な遺品を目の当たりにすることができて非常な喜びを覚えている。小林先生は二〇〇八年に他界され、生前、野口の遺品について直接お聞きすることが叶わず悔やまれるが、幸いガラス乾板とともに一九六七年一二月作成の小林先生の詳細な目録のメモも発見されている。野口遺品は九州大学から昭和四八年（一九七三年）二月二一日野口英世記念館東京事務所に届いている（野口英世記念会報一九号、昭和四八年一〇月三〇日発行）。現在、猪苗代の野口英世記念館で保管されているガラス乾板の保存状態は極めて良好で、今後、速やかにデータベース化され、広く研究者や一般市民に閲覧の機会が与えられることが待たれる。

さて、一九一五年二月九州大学医学部第一内科初代稲田龍吉教授・井戸泰助教授はワイル病病原体を発見*Spirochaeta icterohaemorrhagiae*と命名、発表した。現存する世界最初の分離株Ictero No.1は病原レプトスピラの基準株となり、感染、臨床、病理、診断、治療、予防など多岐にわたる完璧な優れた研究業績は国の内外で高く評価され、一九一六年稲田・井戸は帝国学士院賞恩賜賞を受賞し、ノーベル賞候補にも挙がった。ノーベル賞選考過程の一九一八年、井戸がスペイン風邪から腸チフスを併発、急逝したため残念ながら選考対象から外れてしまった（読売新聞、一九八八・三・二九）が、一九四四年、稲田はFlexnerや野口とも親交のあった志賀潔と同時に細菌学への貢献により文化勲章を受賞している。一九一八年ワイル病病原体の名称について野口英世は各種スピロヘータ形態の詳細な比較研究から稲田らの*Spirocheta*に替え、新

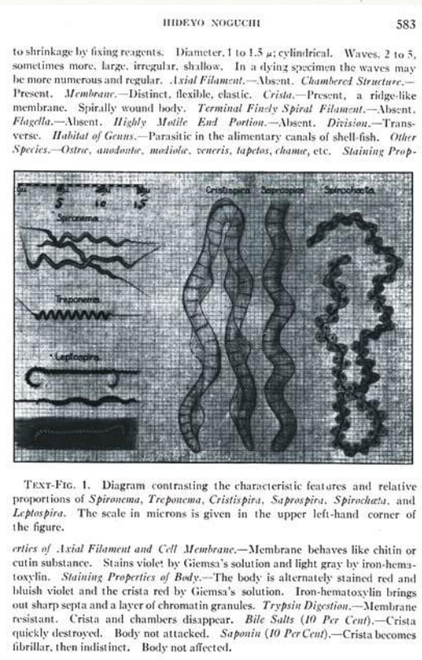
属名*Leptospira*（thin helix or coil）を与え、今日に至っている。野口自身もワイル病病原体をエクアドルで分離して、*Leptospira icteroides* と命名し、日本、イギリス、フランス株を取り寄せ、比較研究している。野口は稲田、井戸に非常な敬意を払っており、一九一四年稲田がロックフェラー研究所を訪問した折には懇切丁寧に案内し、自宅に招いて最も出来の良い絵画「川魚の図」を贈呈した（写真3）。この絵画は稲田の死後、野口英世記念会を経て、福島県知事に贈呈されている。また、井戸の訪問に際してはニューヨーク港の船まで出迎えたと伝えられている。

野口は恰も電子顕微鏡像でもあるかのような素晴らしい各種スピロヘータのスケッチを J. Exp. Med.1918 に掲載しており、野口の明敏な観察力の神髄が遺憾なく発揮されている（写真4）。今回発見の乾板の中にこのスケッチの基になった顕微鏡写真の原板が含まれていると思われる。また、小林メモには一九一九年にレプトスピラ、一九二一年にはトレポネーマのきれいな写真が残されていると記載されている。直ぐにでも見たい心境で、その公開を心から待ち望んでいる。

写真３
稲田龍吉博士と野口英世博士
ロックフェラー医学研究所玄関前にて
1924 年（大正 13 年）

ところで、小林先生は稲田一門としてレプトスピラ病研究を継承、展開された。特記すべきは日本の威信に関わる二つの国際的重要懸案即ち①病原レプトスピラの基準株の優先権、②種名の復権の一大事解決に尽力されたことである。

稲田・井戸が一九一四年一一月二三日ワイル病患者S.Y.より分離した Ictero No.1 株は太平洋戦争末期には東京大学でも継代維持が困難となり、一九四五年山本脩太郎教授は兵庫県和田山町の農林省獣疫調査所中国支場に疎開させ維持してきた。日本敗戦後の一九六六年、モスクワでのレプトスピラ分類委員会は、一九〇七年米国の Stimson が「黄熱」で死亡した患者の腎切片にスピロヘータ様?形態を見出し、菌を分離することもなく（*?Spirohaeta*）*interrogans* として報告したものを根拠に、病原レプトスピラの種名として *Leptospira interrogans* を採用した。また、病原レプトスピラ基準株を稲田・井戸の Ictero No.1 に替えて、Uhlenfuth ら（独）が一九一五年一〇月発表のワイル病病原体 *Spirochaeta icterogenes* RGA 株を *Leptospira interrogans* の基準株とする欧州グループの提案を採用、稲田・井戸の名前が消えてしまった。小林先生は単クローン抗体などを駆使して Ictero No.1 と RGA の性状の比較解析を通して、また、東京大学山本脩太郎教授、北海道大学梁川良教授は Ictero No.1 が確実に継代維持されてきたことを系統的に立証して Ictero No.1 の基準株としての正当性を明確にされた。一九九〇年大阪での国際細菌分類委員会レプトスピラ分類委員会において小林先生は梁川、山本教授と共に Ictero No.1 を再び病原レプトスピラの基準株に戻すこと


HIDEYO NOGUCHI 583

to shrinkage by fixing reagents. Diameter, 1 to 1.5 μ; cylindrical. Waves, 2 to 5, sometimes more, large, irregular, shallow. In a dying specimen the waves may be more numerous and regular. *Axial Filament.*—Absent. *Chambered Structure.*—Present. *Membrane.*—Distinct, flexible, elastic. *Crista.*—Present, a ridge-like membrane. Spirally wound body. *Terminal Finely Spiral Filament.*—Absent. *Flagella.*—Absent. *Highly Motile End Portion.*—Absent. *Division.*—Transverse. *Habitat of Genus.*—Parasitic in the alimentary canals of shell-fish. *Other Species.*—*Ostrae, anadontae, modiolae, veneris, tapetos, chamae,* etc. *Staining Prop-*



TEXT-FIG. 1. Diagram contrasting the characteristic features and relative proportions of *Spironema, Treponema, Cristispira, Saprospira, Spirocheta,* and *Leptospira.* The scale in microns is given in the upper left-hand corner of the figure.

*erties of Axial Filament and Cell Membrane.*—Membrane behaves like chitin or cutin substance. Stains violet by Giemsa's solution and light gray by iron-hematoxylin. *Staining Properties of Body.*—The body is alternately stained red and bluish violet and the crista red by Giemsa's solution. Iron-hematoxylin brings out sharp septa and a layer of chromatin granules. *Trypsin Digestion.*—Membrane resistant. Crista and chambers disappear. *Bile Salts (10 Per Cent).*—Crista quickly destroyed. Body not attacked. *Saponin (10 Per Cent).*—Crista becomes fibrillar, then indistinct. Body not affected.

写真 4. 野口英世 1918 年発表の各種スピロヘータのスケッチ
Leprospira,Treponema,Spironema, Cristispira, Saprospira, Spirocheta の名前あり



に奮闘、復権を達成され、懸案の一つは解決した。一方、残念ながら今日まで種名の回復には至っていない。小林先生は大阪での国際微生物学会、レプトスピラ分類委員会の関係者を松山まで貸し切り列車で移動させるなど日本の威信をかけ周到に準備した国際レプトスピラ病会議を開催して会議を大成功に導き本領を遺憾なく発揮された。先生は Ictero No.1 をめぐる問題の最中、一九八八年日本細菌学会のシンポジウム「細菌学の今昔 - 温故知新」において若い世代を意識して〝科学の世界にも国境は厳然と存在する〟と万感をこめ強調された講演は印象的であった。

筆者は九州大学医学部構内の稲田の胸像が建つ稲田通りを抜け宮入通りに面した薬学科に通った。学部三年の一九五六年、小林先生の恩師九州大学医学部第一内科第五代、操胆道教授の内科学会総会長特別講演「最近におけるレプトスピラ病研究の趨勢」を拝聴し、一九八一年には小林先生の計らいで九十歳近い操先生から特別講演の別刷を頂き、ワイル病病原レプトスピラ発見時の模様を直接聴く幸運に恵まれた。稲田は一九一四年一一月教授総回診の前夜、門下の和邇・法貴から患者尿沈査の暗視野にうごめくスピロヘータを見つけたとの報告を受け、深夜、福岡市大名町の自宅から人力車で大学研究室に駆けつけた。その後、患者や保存標本から容易にレプトスピラが見つかり、翌一九一五年二月二一日九州大学集談会で「ワイル病病原体発見」を公式に報告した。

ところで、小林メモには一九二一年以降、野口の助手で秘書を務めた Miss Tilden（写真5）の名が散見される。Tilden は一九一七年から十二年間、野口の研究に深く携わり、オロヤ熱研究は一手に引き受け、培養が難しい各種スピロヘータの培養にも習熟していたように思われる。ブラウン大学の文系出身ながら本人の天性と努力に加え、野口の指導が適切、的確で信頼も厚かったことが伺える。一九二八年の野口死後も三年間オロヤ熱研究は Tilden により精力的に継続され、最後の乾板は一九二九年四月二九日となっている。Tilden は一九二六年コロンビア大学からオロヤ熱研究で修士、一九二九年博士の学位を取得、一九三一年までロックフェラー研究所に在籍、コロラド州立大学を経て、一九三二年からノースウェスタン大学歯学部で教鞭をとり、一九四八年から一九五四年まで教授を務めた。

写真 5. Dr.Evelyn Butler Tilden

小林先生は九州方面の風土病であるリケッチア症の鏡熱の研究で、病原体を *Rickettsia sennetsu*（今日 *Neorickettsia sennetsu*）と命名するなど優れた業績を挙げ、一九六七年第十一回野口英世記念医学賞、二木賞（日本感染症学会賞）を受賞されている。

二〇〇四年、レプトスピラ研究会後の会合で新たに発行された千円札、五千円札が話題になった。小林先生は「何故に野口が千円で、樋口一葉が五千円か分からぬ、与謝野晶子だったらインパクトもありわかる」と仰った。今日、千円札は多くの日本人が常時持参し最も頻繁に使用されていることを思えば却って良かったのではないだろうか。

かつて日本に設置されていた WHO Leptospirosis Reference Laboratory を返上する動きがあった時、小林先生は国際機関の存在の意義や役割に思いをいたし、大いに懸念され、対応を真剣に思案されていた姿が目に浮かぶ。温厚で静かな中に真に国を思い、先学への深い敬愛の情を秘めつつ、若い世代への期待をこめてひたすら全力を尽くされた小林先生に多くのことを学んだ。感謝の念を禁じ得ない。

## 編集室より

「野口英世の顕微鏡写真乾板」が、野口英世記念館の収蔵庫に長い間眠っていたことが、偶然の機会に明らかになりました。

２０１５年の晩秋、副理事長の友人、内田俊秀さん（京都造形美術大学名誉教授）が、神戸からはるばる来館されました。文化財の修復をご専門とされていて、野口英世の生家に大変興味を持たれ、１９８１年（昭和56年）の生家の解体修理のことなどについて、学芸員の話に耳を傾けられました。その会話の途中、「実は野口英世が撮影した顕微鏡写真のオリジナルのガラス乾板を保存しています」と話した学芸員の言葉に、「是非それを見せてください」ということになり、収蔵庫にご案内しました。

これは「文化財クラスの資料です」という内田さんのお言葉に、案内した副理事長も学芸員も驚きました。

どのような経緯で、貴重なガラス乾板が記念館に保存されているのかを調べました。「野口英世記念会報14号」（昭和43年3月）に「九州帝国大学医学部図書館に数年前、ロックフェラー医学研究所から野口英世博士が研究中撮影された大量の写真乾板その他が寄贈されている」という記事があり、さらに、「同会報19号」（昭和48年10月）には、「昭和35年ロックフェラー医学研究所から到着以来折衝を続けてきた九州大学医学部同窓会が保管している資料を研究、調査のため貸出を認められ、昭和48年2月21日無事東京事務所に到達した」とありました。また「当会の希望達成への労をとられた小林譲博士のご厚意」への感謝も述べられています。

ガラス乾板の総数は３４６５枚、そのほとんどが、１００年前の野口英世の情熱を今に伝えるかの如く、見事に保存されていました。

副理事長の友人、共同通信社の解説委員、吉本明美さんに連絡して、東京から取材に来てもらいました。その記事が全国に配信されたのが、２０１６年３月24日でした。３月28日には、福島県庁記者クラブに連絡して、野口英世至誠館で記者会見を行いました。

４月１日からは、１階展示室で初公開資料展「新資料にみる野口英世」を行い、多くの人に感銘を与えることができました。

2016年（平成28年）3月25日 金曜日

野口英世の研究写真確認

福島・猪苗代町の記念館

著名論文の画像原本など

3000枚超のガラス乾板

「野口英世の研究写真確認」 徳島新聞 2016 年 3 月 25 日

野口英世至誠館で行われた記者発表



# 新しい野口英世に出会って

元朝日新聞論説委員
西﨑　建策

一冊の本の、そこに描かれている人物像に、読んだひとが大きな影響を受けることがある。私の友人もそんなひとりだ。

終戦の翌年、彼が入学した岡山市街地の小学校は、前年の空襲のとき炎に包まれかけたが、寸前で焼失を免れた。図書室があって、何冊か偉人伝があった。彼は繰り返し読んだ。そして、小学校の卒業文集にこう書いた。

「ぼくは野口英世のような人になりたい」

### 作文どおり　医療貢献の友

もちろん青春は一直線ではない。大学では、経済学の勉強をと考えたこともあったが、受験直前に思い直して医学部へ進み、病理学者になった。

岡山大学医学部長を最後に退職すると、それまで深く関わってきたミャンマーの医療支援に本腰を入れる。自ら立ち上げた認定ＮＰＯ法人「日本・ミャンマー医療人育成支援協会」はことしで11年。この間、研修のため日本に招いたミャンマーからの若い医師らは60人を超え、その一方で、現地へ出かけて手術指導したり、子宮がん、乳がんの検診センター開設を援助したり。会員からの寄付でつくった診療所は17か所にのぼる。

自身のミャンマー渡航は研究者時代を含めて70回以上。彼、岡田茂君はおそらくミャンマーの医学界で最も知られた日本人だろう。

この国はつい最近まで世界の最貧国のひとつだった。そこでの彼の献身は、国境を越えた医療活動の先がけでもあった野口英世の精神にどこか通じる。「いくら何でも、それは差し出がましい」と本人はいうのだが…。

私にも思い出がある。

同じ岡山でも片田舎に育ち、小さな学校には図書室などはなかった。町へ出かけた折、母に買ってもらった伝記本で初めて知った偉人が野口英世だった。

中学2年のとき、演劇好きな国語教師から脚本を書くように宿題が出た。内容は自由、ただし一場面だけ。真っ先に思いついたのが、伝記で読んだ英世の少年時代だった。

「びんぼう、てんぼう」

今日もまた遊び友だちにからかわれて、くやし涙をこらえる清作。そこへ母シカ。友だちを叱りつけ、清作に言い聞かせる。

「くやしかったら、勉強で見返してやれ」

私は手元の本を参考に想像をまじえながら書き進めた。そのうち筆が止まる。

「てんぼう」という綽名のもとになった左手の大やけどに触れなければならないが、それにはいろりに落ちた幼いころへの場面転換が必要だ。そうせずに回想ふうにする方法も考えたが、うまく書けなかった。

あきらめて、代わりに書き上げたのが豊臣秀吉の少年時代。天下取りへの出世街道のきっかけと

元朝日新聞論説委員
西﨑 建策さん

なった野武士の首領、蜂須賀小六との出会いの場面だった。

## 母シカの手紙に　文字の力

さて、野口英世記念館の見学である。

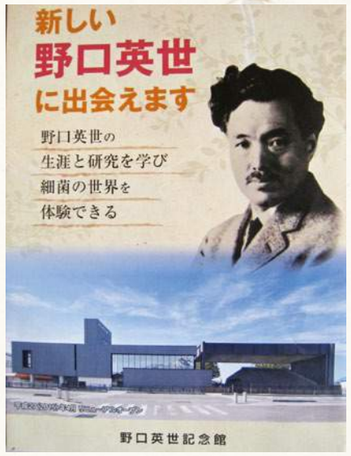
リニューアルと聞いて訪ねたのは去年、２０１６年の５月。磐梯山が全身、新緑をまとってまぶしかった。私にとっては27年ぶり。友人同士３夫婦の旅で、その中の林英生・筑波大学名誉教授が同じ細菌学者の竹田美文・野口英世記念会副理事長と親しく、そんな縁から竹田先生に案内していただく。

筆者が保存していた 27 年前の入場券

入館の際にもらったパンフレットに「新しい野口英世に出会えます」とあった。何かを予感させて興味をかりたてる、うまいキャッチコピーだ。

英世の生涯をたどる遺品や資料が順序よく展示してあり、映像やパネルを使ってわかりやすい。いろいろと工夫もされており、例えば難しい細菌の世界をゲーム感覚で体験できる。

そんな中で私が最もひかれたのは、前回訪れたときもそうだったが、米国の英世に宛てて帰国を促す母シカの手紙だった。展示は一新されていて、手紙が後ろの大きなパネルにも映し出され、それを声優が会津弁で朗読する。



新しい記念館のパンフレット

「はやくきてくたされ」「はやくきてくたされ」と４回続け、最後の方でもう１回念を押す。

文字と音声が重なる、いわば視聴覚効果によって、息子に会いたい母の気持ちが、痛切な叫びとなって伝わってきた。

シカは子どものころ、貧しさから満足に勉強できなかった。字は奉公先で、家人が寝静まってから月明りを頼りに、灰の上に指で書いて憶えた。手紙は代筆してもらっていたのに、これだけは自分で書いたと言われる。

自筆の字は稚拙だ。誤字脱字があり、濁点がない。文の切れ目に打つ句点のマルが隅ではなく真ん中に大きく打たれている。しかし、飛び跳ねた字の勢い、マルの力強さから、かえって母の懸命な思いが迫ってくるから不思議だ。

今は字を書くのではなく打つご時世。だから余計に、手書きの文字が持つ力を感じた。

チョビひげに白衣姿のロボットがいた。毎日のようにお目にかかる千円札の顔より若い。「ネバーギブアップだよ」「ジャストドウイト、がんばれば夢がかなう」などと、身振り手振りで話しかけてくる。実によく出来ている。

「精功なだけに維持管理に金がかかるんですよ。でも、子どもたちが一番喜んでくれるので」と竹田先生。平日の、それも閉館間際だったので、子どもの姿はなかった。これが休日や団体見学のときならロボットの前に大勢群がるに違いない。子どもたちに未来を託す老学者の話は温かく、眼差しは優しかった。

野口英世のロボット

母シカの手紙の展示



## 英世からの学び　様々に

野口英世像・モニュメントの一覧表に、足を止めた。記念館の調べでは海外を含めて１８５体。大半はブロンズ像だが、石像やコンクリート像もあり、多くは学校に設置されている。岡山県内はなぜかゼロだが、すぐ隣の兵庫県姫路市では小学校４校にあった。

小学校の道徳の授業に英世が登場したこともあって、記念館には像をつくりたいという相談がときに寄せられるそうだ。昔は修身で教えられ、戦後も伝記で読み継がれ、そして今、道徳に出てくる英世について改めて考えてみた。

修身といえば戦前の教育を連想しがちだ。英世自身には借金癖があり、浪費家であり、数々の研究業績の中で一部はのちに疑問が出されたといわれる。

しかし、たとえそうであっても、志と挑戦、努力、忍耐、さらには母と子の絆や師弟愛、友情など、英世が発信するメッセージはいつの時代も普遍的な意味を持つ。

今、子どもの６人のうち１人が貧困状態にあると社会問題化している。グローバル化時代に、世界に通用する人材の育成が教育課題になっている。英世は極貧のなか様々な苦難を乗り越えた。１世紀前の遠い昔、研究、調査などの足跡を世界各地に残し、それは５大陸のうちオセアニアを除く４大陸にも及ぶ。現在もまた、英世から学ぶべきことは多いのである。

小学校の道徳は来年度、２０１８年度に全面教科化され、新しく採択される教科書での授業が始まる。英世について、何社の教科書にどんな話が載るだろうか。

そんなことを思いつつ見学を終える。キャッチコピーに偽りなし。確かに、新しい野口英世に出会うことができた。

## 清作役は　ヒーローだった

冒頭の岡田茂君とは高校から60年来の友である。帰ってから数日後、野口英世記念館に行ったこと、そこで、細菌学の竹田美文先生にお世話になったことを話すと、「先生、お元気でしたか」と問い返してきた。

聞けば、２人は旧知の仲。彼が京大の研究者だったころ、竹田先生が東大教授から京大教授に。専門分野は違ったが、一緒にビルマ、今のミャンマーに出かけたこともあったという。

後日談をもうひとつ。

新聞記者時代の親しい仲間10人余が大阪に集まり、一晩、酒を酌み交わした。隣合わせになった後輩は会津の出身。「きみの故郷に行って、新しくなった野口英世記念館を見てきたよ」というと、後輩は歌い出した。

磐梯山の　動かない
姿にも似たその心
苦しいことが起こっても
貫き遂げた　強い人…

「これ、野口英世の歌です。これを歌って大きくなったんですよ」。そしてこう続けた。「小学校の学芸会の定番演目は野口清作物語。清作になる子はヒーローでした」

「きみも清作役を」と私が聞くと、「えぇ、まぁ」と古稀の顔が少年のようにはにかんだ。

後輩の心には今も野口英世が、会津の風土が生きていた。

生家前で同行者と記念撮影

# 学校教育で活用したい！「野口英世」の学習

宮城県大崎市立古川第一小学校　髙橋　正範

## はじめに

私は、平成27年度まで宮城県大和町立小野小学校に勤務しておりました。その中で、平成26・27年度は6年生の担任をし、修学旅行で野口記念館を見学させていただき大変お世話になりました。特に、2年間出前授業の講師としてご指導くださいました竹田美文先生との出会いは、6年生の子どもたちはもちろん、私にとっても非常に大きなものとなりました。

## 出前授業

平成26年4月、「野口英世記念館の方が直接学校へ赴き、野口英世について出前授業を行う」という案内チラシを目にしました。修学旅行で野口英世記念館見学を予定していましたが、事前に野口英世に関して詳しくお話をしていただくことは、子どもたちの野口英世に対する興味関心を高めることに効果があると判断し、迷わず出前授業の申込みを行いました。私は電話で申し込みを行った際、電話に対応していただいた記念館の職員から、「副理事長の竹田という者が伺います。」と聞き、とても驚いたと同時に期待が膨らみました。6年生の子どもたちにもこのことを話したところ、「副理事長さんから直接お話が聞ける！」と大変喜んでいました。

修学旅行出発の約2週間前、小野小学校で出前授業を行っていただきました。約1時間あっという間の授業でした。野口英世の生涯について、スライドを使いクイズも取り入れながら楽しく、分かりやすいお話をしていただきました。特に、英世が貧しい農家の家庭で育ったこと、左手の火傷あとを手術したことをきっかけに医師を目指したこと、そして英世が研究したこと（蛇毒や黄熱病の研究）などは、子どもたちがメモを一生懸命に取りながら話を聞いていました。

また、竹田先生ご自身が英世の生き方に感銘を受けて医師を志したことも交えながら『熱く』語ってくださったことも、子どもたちの学ぶ意欲を引き出したと感じました。子どもたちからは「早く野口記念館を見たい」という声が聞こえたり、英世の伝記を改めて読み直したりする姿が見られ出前授業の効果が表れていました。

髙橋正範先生

翌年の平成27年度も引き続き出前授業を行っていただきました。子どもたちの中には、昨年の6年生から出前授業の話を聞いていた子どもがいて、私に「先生、今年はいつ出前授業があるのですか。」という質問がくるほどで、昨年以上に子どもたちの期待が高まっていました。

## 修学旅行（野口英世記念館見学）

野口英世記念館では、まず子どもたちから出前授業のお礼の手紙を渡し、その後見学が始まりました。出前授業で野口英世について事前学習をしているため、出前授業を受けていない子どもたちと比べて展示資料を見て理解するのが早いように感じました。また、資料を見て英世について調べる意欲も高いように感じました。そのため、私たち教員が行う展示資料の解説を補う説明を聞く姿勢も真剣で、熱心に質問をしてくる子どももいました。

スライドを使った出前授業

英世の生家で、もっとも関心が高かったのは英世が火傷を負った囲炉裏でした。蚕を飼う棚やざる、保存食の乾物などで当時の雰囲気が伝わってくる家の中を、子どもたちはじっと見つめて英世の幼い頃の姿を想像していたようでした。また、英世が床柱に刻んだ決意文「志を得ざれば再び此の地を踏まず」に目を向け、子どもたちは英世の強い志を感じ取ることができたと思います。

展示館は、平成26年度が改築工事中のため2階のみの見学でしたが、子どもたちにもっとも人気があったのは「英世ロボット」でした。まるで野口英世が生き返ったように感じるほどよくできており、子どもたちは何度も質問をして英世の答えを聞き取っていました。

そして、平成27年度リニューアルされた展示館は、入り口から子どもたちの心をつかむものとなっていました。それは、「プロローグシアター」です。ここで、子どもたちは英世が生きた時代にタイムスリップして展示ブースへと進んでいきました。「猪苗代・会津若松時代」から「東京時代」「アメリカ・デンマーク時代」「中南米・アフリカ時代」と順を追って、とても分かりやすく展示されていました。特に次の2つの理由から、小学6年生でも分かりやすくなったのだと思います。

①展示パネルを前後左右の間隔を十分取って立体的に吊り下げたり、手紙や実験器具など豊富な実物資料の置く高さや位置、各ブースの色合いも工夫され、見る側を強く意識した作りになっていたりすること。

②展示資料の解説文が要点を押さえ、分かりやすく簡潔に整理されているので読みやすいこと。つまり、難解な言葉や漢字をほとんど使用しておらず、どうしても必要な場合は補足が追記してある。また、多くの漢字に読みがなが書いてあることで小学6年生でも最後まで解説文を読むことができること。

この他にも、子どもたちが母・シカの手紙を拡大した展示と手紙の朗読から「息子に早く会いたい！」という母の気持ちに共感したり、実験記録の英世の達筆や、細やかな絵画などを見て英世の能力の高さに驚いたりしている姿がたくさん見られました。そして、体験バクテリウムコーナーでは、小学生には難しく感じられる細菌について、映像や画像、イラストパネル、クイズ「目指せ細菌マスター」など様々な方法で楽しみながら学習できるように工夫がなされ、子どもたちには大人気でした。また、病原体を退治するゲームは長蛇の列となっていました。

「百聞は一見に如かず」という言葉の通り、子どもたちは出前授業で教えていただいたことや事前に調べたことを自分の目で確かめたことで、理解を深めることができました。改めて「本物」を見ることの大切さとおもしろさを感じることのできた見学になりました。

生家囲炉裏

## おわりに

英世ロボットを見る子どもたち

近年、宮城県内の修学旅行先は東日本大震災から5年を経て会津若松方面に戻りつつあり、野口英世記念館を見学する学校も多いようです。それ故に、もっと野口英世を『よい』教材として、その生き方・考え方からたくさんのことを学べるように活用していけるとよいのではないかと考えています。困難に挫けず我慢し、夢や目標に向かって根気強く取り組む英世の姿には、私たちが人として学ぶべき不易の要素がたくさんあると思います。

小学校では、平成30年度から道徳が「道徳科」として教科になり、より一層重視されます。文部科学省から全国の小学校に配付されている「わたしたちの道徳（5・6学年）」には、多くの人に支えられながら人々のために力を尽くした英世の生き方が取り上げられています。

また、宮城県では子どもたちに夢や希望をもってよりよい生き方を求めさせる「志教育」を教育課程に位置付け、社会や集団の中で自分の役割を果たすことも大切にしています。したがって、野口英世（英世に関連する施設等も含め）を学校教育と関連付けて展開していくことは、子どもたちにとってきっと意義のある学習になるのではないかと考えます。

今年度より、私は宮城県大崎市の学校に勤務しておりますが、本校の6年生も出前授業を行っていただいてから修学旅行に出発しました。これからも野口英世記念館とのつながりを大切にし、英世のすばらしさを子どもたちに伝えていきたいと思います。

## 編集室より

髙橋正範先生に『学校教育で活用したい！「野口英世」の学習』と題する貴重なエッセイをご寄稿いただきました。先生のエッセイのなかに、リニューアルした新しい展示館が小学校6年生にも分かりやすい理由として、「展示資料の解説文が要点を押さえ、分かりやすく簡潔に整理されているので読みやすいこと。つまり、難解な言葉や漢字をほとんど使用しておらず、どうしても必要な場合は補足が追記してある。また、多くの漢字に読みがなが書いてあることで小学6年生でも最後まで解説文を読むことができること。」と書かれています。私どもが、新しい野口英世記念館の展示をどのようにするか、もっとも苦心した点をご指摘していただき、お褒めいただいたことを大変嬉しく思っています。

実は、この展示作業は、髙橋先生にお手伝いして頂きました。私どもが展示の専門業者と「展示をどのようにするか」を、何度も何度も打ち合わせをした最終案を、髙橋先生にお送りし、「小学6年生に分かる説明文になっているかどうか、読みがなは適当かどうか」など、先生のご意見をいただきました。

お忙しい中を、全部の説明文を丁寧に読んでいただき、たくさんの赤字を入れていただきました。もちろん、赤字の部分は先生のご意見をそのまま反映させていただきました。

2階展示室から1階へ降りるところの壁面に、新しい展示館の展示作業にご協力いただいた多くの団体・個人の皆さんへの感謝の気持ちを表したパネルを掲示しています。「髙橋正範」先生のお名前も、そのパネルの中にあります。ここに、改めて私たちの感謝の気持ちをお伝え致します。



# 野口英世記念館の動向

## 「ふるさと大好き 59市町村応援プロジェクト」野口英世生家前で植樹式

平成28年4月21日

4月21日に、福島民報社による福島県内の市町村地域づくりを応援する「ふるさと大好き、59市町村応援プロジェクト」の植樹式が、記念館生家前で行われました。

「ふるさと大好き、59市町村応援プロジェクト」植樹式
左から前後公猪苗代町長、長沼一夫猪苗代町議会議長、
矢森真人福島民報社専務

前後公・猪苗代町長、矢森真人・福島民報社専務、長沼一夫・猪苗代町議会議長が、生家前の中庭にソメイヨシノを植樹しました。

午後には、野口英世至誠館において、「猪苗代フォーラム」が二部構成で開催されました。第一部では、公益財団法人野口英世記念会副理事長・竹田美文が「ドクター野口に学ぶ精神力」と題した講演を行いました。講演を聞いた春日栄子さんは「野口英世のことをほとんど知らなかったので、大変勉強になりました」と感想を述べられました。

第二部では、昭和36年から38年にかけて、福島民報社が編集して映画館で放映していた猪苗代町ニュースの上映会が行われました。「雪の村の獣医さん」は、豪雪の中、農家のために町内を駆けまわる獣医さんの活躍を紹介したニュースでした。その他に「スキー場は花盛り」と「山の分校」が上映されました。

当日は先着50人に、「いなわしろ天のつぶ」300gがプレゼントされました。

## 地方自治法施行60周年記念貨幣

平成28年4月22日

平成28年、地方自治法施行60周年記念貨幣の福島県のデザインに野口英世が選ばれました。

地方自治法施行60周年記念貨幣とは、国家的な記念事業の一環として、平成20年7月から各都道府県に関連のあるデザインで順次発行されています。

金融機関で引換が行われる「五百円バイカラー・クラッド貨幣」と造幣局より直接販売される「プレミアム千円銀貨幣」の二種類のデザインがあり、福島県の「プレミアム千円銀貨幣」の表面のデザインには、『野口英世と磐梯山と猪苗代湖』があしらわれています。プラスチックケースに収めた単体セット、記念切手入りのもの、特製ケース入りの三種類が合わせて十万枚発売されました。

「地方自治法施行60周年記念貨幣」
『野口英世と磐梯山と猪苗代湖』のデザイン

## こどもの日、餅つき大会

平成28年5月5日

餅つき大会の様子

5月5日のこどもの日に、生家前において、こどもの日餅つき大会を行いました。

子どもたちは、うすの中のお餅を、杵で力強くついていました。うすと杵のお餅つきを体験した子どもたちは、できあがったお餅にきな粉をつけ、美味しそうにほおばっていました。

今回のお餅は、「恩賜田」で収穫したもち米で作りました。「恩賜田」は、大正4年に野口英世が帝国学士院賞恩賜賞を受賞した時の賞金で、母シカのために購入した水田で、野口英世記念館の近くにあります。

## 第88回 野口英世命日祭

平成28年5月21日

5月21日に、第88回野口英世命日祭が、生家前中庭にある野口英世の碑の前において催されました。

野口家の菩提寺である長照寺の楠俊道住職の読経ののち、関係者による焼香が行われ、英世の冥福を祈りました。居合わせた来館されたお客様も、位牌に手を合わせ、焼香をしてくださいました。

第88回命日祭

## 野口英世記念館が応急手当推進事業所に認定

平成28年6月27日

野口英世記念館が、猪苗代消防署より、応急手当推進事業所に認定されました。応急手当推進事業所とは、自動体外式除細動機（ＡＥＤ）が設置されており、職員が応急手当の講座を受講している事業所のことです。

6月27日、猪苗代消防署内において認定書の交付式が行われ、猪苗代消防署長・鈴木保雄様より認定書が手渡されました。応急手当推進事業所に指定された事業所は、記念館のある三城潟地区では、はじめてです。

AED を使用した
応急手当講習の様子

## 野口英世キッズサマーセミナー開催

平成28年8月6日・8月20日

夏休みおもてなし企画として、小中学生を対象に、野口英世キッズサマーセミナーを8月6日と8月20日に開催しました。野口英世キッズサマーセミナーは、夏休みの読書感想文や自由研究で野口英世をテーマにする子どもたちや、記念館を訪

学芸員より説明を受けるこどもたち



れた子どもたちに、野口英世のことをより深く探求してもらうことを目的とした企画です。当日は、子どもたちと一緒に学芸員が館内を回り、野口英世について詳しく説明しました。

## 救世観音祭礼

平成28年8月9日

8月9日に、生家前の中庭の観音堂に祀られている救世観音の祭礼が行われました。野口家の菩提寺である長照寺のご住職楠俊道様の読経の後、三城潟御詠歌護持親睦会の皆さまが、御詠歌を詠まれました。

観音堂は、英世の母シカが生涯にわたり会津美里町の中田観音を信仰していたことから、昭和14年の記念館開館時に建立され、一葉観世音菩薩が祀られています。

救世観音祭礼

## 第１４０回誕生祭

平成28年11月9日

第１４０回野口英世誕生祭が、野口英世至誠館において、11月9日に開催されました。野口家菩提寺・長照寺の楠俊道住職の読経に続き、来賓の方々による献花が行われました。また、野口英世の母校である翁島小学校4年生の児童の皆さんが、唱歌「野口英世」を披露してくださいました。式典後には、恩賜田で収穫されたもち米のお餅が、出席者に振る舞われました。

読経する楠俊道住職

## 生家だんごさし

平成29年1月12日

小正月の猪苗代の伝統行事「だんごさし」が、1月12日に生家において行われました。野口英世の母校翁島小学校の1年生と3年生の児童の皆さんが、五穀豊穣を願い、ミズキの木に彩とりどりのだんごを飾り付けてくださいました。

彩られただんごさしの前で

## 生家豆まき

平成29年1月31日

1月31日に、野口英世の母校の翁島小学校の1年生と3年生の児童の皆さんが、今年も鬼退治に来てくれました。児童たちは、野口英世記念館の職員が扮する鬼に、元気よく豆まきをしてくれました。

元気に鬼退治

# 各地で行われたイベント

## 観光で東北を元気にするシンポジウムにて活動報告

平成28年4月4日

「観光で東北を元気にするシンポジウム」が仙台国際センターで開催されました。東北6県の知事をはじめ、東北各県、市町村、観光関係諸団体、観光産業などの関係者約800名が出席して行われたシンポジウムです。

東北6県の知事による、パネルディスカッションや東北観光推進機構・JR東日本の取り組み状況、今後の方針などの発表、デスティネーションキャンペーン（DC）での各県観光関係者の活動報告があり、福島県代表として、総務課主任の野口由紀子が登壇をし、ふくしまDCを通しての野口英世記念館の取り組み、今後の課題などを発表しました。

野口英世記念館のリニューアルやお客様が自ら体験できる企画に重点をおいて取り組んだ内容、成果を報告しました。また、課題となる二次交通については、野口英世記念館だけでなく、業種、地域を超えて共通認識をもち、連携することが解消に向けた取り組み、発展となり、お客様にご満足いただける観光ルートにつながることを報告しました。

各県、各施設の観光の取り組みを知り、学ぶ機会とともに、県内外の方に野口英世記念館のPRをする貴重な機会となりました。

観光で東北を元気にするシンポジウム（仙台）

## 米国・ニューヨークで野口英世メモリアルデー89回忌式典

平成28年5月21日

野口英世をしのぶ式典が、野口英世が眠るニューヨークのウッドローン墓地にて行われました。ニューヨーク野口英世記念会の主催で行われ、日米の医学関係者が偉業をたたえました。式典には

ニューヨーク野口英世メモリアルデー
（提供　New York Hideyo Noguchi Memorial Society, Inc.）



約30人が参加されました。

在ニューヨーク日本総領事館の阿部康次主席領事、ロックフェラー大学のティモシー・オコーナー博士がスピーチを行いました。

ニューヨーク野口英世記念会は、野口英世の功績をたたえ、日米の医学を志す子どもを応援する目的で平成25年に設立されました。日米教育や文化交流におけるさまざまなイベントを実施しています。この式典は、平成26年から行われています。

## お座敷列車「ふるさと」で行く！呑んべぇ〝会津地酒列車〟の旅

平成28年5月21日

JR猪苗代駅にて開催された、アフターDCの特別列車「呑んべぇ〝会津地酒列車〟」のイベントおいて、野口英世記念館のPR活動を行いました。

なりきり英世を
体験する子どもたち

主催は東日本旅客鉄道株式会社によるものです。色彩豊かな3両編成のお座敷車両で地酒を飲み比べながら、ご当地グルメを楽しむ誘客を目的としたイベントです。車内では酒造関係者による会津清酒に関する講習会も行われました。

猪苗代駅では地酒や地元の新鮮野菜を使った料理、郷土料理の「こづゆ」などが振る舞われご当地の「食」を楽しんでいただきました。

野口英世記念館は、野口英世記念館ガイドブックや缶バッチ、招待券など野口英世記念館グッズが当たるおたのしみ抽選会を行いました。白衣とつけひげで野口英世になりきれる体験コーナーを設置し、写真撮影を行うなど楽しんでいただくことが出来ました。

## ご当地キャラこども夢フェスタ in しらかわ2016

平成28年5月21日・5月22日

日本三大ご当地キャラライベント「ご当地キャラこども夢フェスタｉｎしらかわ」において、野口英世記念館広報大使の「ヒディ」のPRを行いました。

主催は白河市、福島県、福島観光復興キャンペーン委員会等で、東北から全国に笑顔を発信することを目的に開催されました。全国より166体のキャラクターが集まり、各キャラクターのオリジナルグッズやご当地物産販売など、キャラクターのご当地をPRしました。

野口英世記念館広報大使「ヒディ」もパレードに参加しました。

ご当地キャラこども夢フェスタ in しらかわ

## 磐梯山SA　極上の会津PRイベント

平成28年6月18日

磐越自動車道の下り、磐梯山サービスエリアにおいて行われた極上のあいづPRイベントに、野口英世記念館も参加しました。

主催はNEXCO東日本会津若松管理事務所と極上の会津プロジェクト協議会です。当日はお客

様に、会津小法師の絵付け体験や、炭火で焼いた会津直産のアスパラガスやりんごジュースなどが振る舞われました。また、会津各所のパンフレットの掲示とともに野口英世記念館のパンフレット、缶バッチなどを配布しました。

野口英世記念館広報大使の「ヒディ」が、会津若松ご当地キャラクター「あかべえ」、ネクスコ東日本交通安全啓発キャラクター「マナティ」と一緒に登場して、写真撮影や握手をするなどしてお客様と触れ合いました。

磐梯山ＳＡにて会津のＰＲ活動をするヒディ

## 会津若松観光情報センター iらんしょ出展

平成28年9月9日～24日

生誕140周年記念野口英世記念館
おでかけ展示

野口英世生誕１４０周年記念、野口英世記念館おでかけ展示「会津が生んだ世界の医学者・野口英世の生涯」を、会津広域観光情報センターiらんしょで開催しました。

野口英世の生涯や功績を知っていただく、パネル展を開催しました。パネル展示では野口英世の生涯を、五つの時代（猪苗代時代、東京時代、ロックフェラー医学研究所時代、15年ぶりの帰国、黄熱病との戦い）ごとに、交流や実績をご紹介しました。大正4年に帰国した際に会津若松で行った記念講演会後の様子などを展示しました。

## 猪苗代湖ハーフマラソン2016 PRブース出展

平成28年10月23日

猪苗代町で開催された「猪苗代湖ハーフマラソン２０１６」のイベントで、野口英世記念館のＰＲ活動を行いました。

主催は猪苗代湖ハーフマラソン実行委員会（福島陸上競技協会他）で、県内外から多数のランナーに、猪苗代町へ来ていただくことで、福島県の風評被害を払拭し、郷土の復興につなげることを目的として行われました。当日はゲストランナーとしてバルセロナ、アトランタ五輪女子マラソンのメダリストの有森裕子さんが参加し、総勢２４５６人のランナーが秋の猪苗代を駆け抜けました。

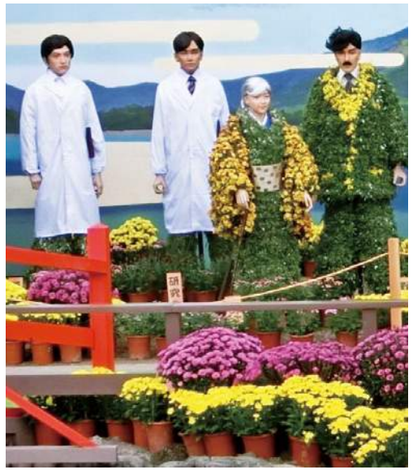
猪苗代ハーフマラソン 2016

野口英世記念館のＰＲ活動を行いました。ハーフマラソンの出場後に、野口英世記念館へお越しいただいたお客様もおられました。



## 第62回 菊の祭典 二本松の菊人形出展

平成28年10月10日～11月23日


野口英世の菊人形

二本松市の福島県立霞ヶ城公園において開催された「第62回　菊の祭典・二本松の菊人形」において、野口英世の菊人形が展示されました。

主催は一般財団法人・二本松菊栄会で、毎年、紅葉の時期に開催され、霞ヶ城公園内には、約３万株の多種多様な菊と、約１３０体の菊人形が展示されました。今年は「あっぱれ！ニッポン！～世界に誇れる日本人～」をテーマに国内外で活躍した日本人が菊人形で表現されました。

祭典では、二本松市内出身の世界的歴史学者朝河貫一とともに、猪苗代町出身の細菌学者として野口英世の菊人形が展示されました。

会期中は、野口英世記念館のＰＲ活動を行いました。リニューアルした野口英世記念館のチラシを配布し、見どころをご案内しました。

## 会津フェスタ2016

平成28年10月14日～

会津フェスタ２０１６がイオン各店舗で開催されました。野口英世記念館では、平成28年10月14日～16日にイオンレイクタウン（埼玉県越谷市）、平成28年11月26日～28日にイオンモールつくば（茨城県つくば市）店で展示を行いました。

このイベントの主催は会津地域17市町村で構成されている会津フェスタ２０１６実行委員会、共催はイオングループによるもので、観光、食、名産品、ワークショップなどを通して会津の魅力を体感していただき、観光客の誘客を目的として行われています。

中でも日本最大級の広さを誇るイオンレイクタウンでは、パネル展示だけでなく、ステージに、野口英世記念館広報大使の「ヒディ」とともに野口英世記念館の職員が登場し、野口英世の生涯を会津の方言を使った紙芝居で分かりやすくご紹介しました。また、リニューアルオープンした野口英世記念館の見どころについてお伝えし、野口英世記念館のＰＲを行いました。

展示ブース前では、子どもから大人まで多くの方が足を止めて興味深くご覧になる姿が多く見られました。

会津フェスタでの活動は、今年で3年目となり、野口英世の生涯と業績に関する知識を多くの方と共有するよい機会となっています。

会津フェスタで記念館のＰＲ

# ふくしまデスティネーションキャンペーン（DC）

「ふくしまデスティネーションキャンペーン（DC）」は、平成28年4月1日から、「アフターDC」を迎えました。期間中の6月30日まで野口英世記念会でも、多くの取り組みを行いました。

「ふくしまデスティネーションキャンペーン」とは、JR各社（東日本、東海、西日本、四国、九州）と福島県および福島県内の指定された自治体、地元の観光事業者などが協力し、全国の旅行会社等の協力を得ながら実施する大型観光キャンペーンです。平成26年4月～6月の「プレDC」、平成27年4月～6月の「ふくしまDC」、平成28年4月～6月の「アフターDC」と、毎年各三ヶ月間行われました。

地元の観光事業者と自治体は、観光資源の掘り起こしや磨き上げ、地域イベントの開催、おもてなしの充実など受入体制を整備し、JRグループは開催地を全国に集中的にPRすることで全国からの送客を図るものです。

「アフターDC」では、前年度の「ふくしまDC」で実施した企画をさらに磨き上げ、実施しました。

平成28年4月19日には、内堀雅雄・福島県知事が、ご来館されました。当日は、八子弥寿男・理事長と森田鉄平・学芸員の案内で、記念館を見学され、生家前で行っていた紙芝居をご観覧されました。視察後、知事は「貴重な資料を多くの人々に見てもらいたい」とお話しされました。

ふくしまアフターDCの視察に
訪れた内堀雅雄・福島県知事

野口英世記念館では、「アフターDC」の期間中、いろいろな企画を実施し、ご来館のお客様をおもてなしました。

まず、特別企画展として「初公開資料展・新資料にみる野口英世」を開催しました。企画展の目玉には、野口英世が脳梅毒患者の脳内に発見した梅毒の原因細菌・梅毒スピロヘータを顕微鏡で観察して写したガラス乾板写真を、初出展しました。野口英世の「梅毒スピロヘータ」の研究は、当時高く評価され、ノーベル賞の候補にもなりました。他に、野口英世が初めての海外旅行の時に使ったパスポート「明治32年の渡清旅券」や大正4年に帰国した際に、猪苗代の一刀彫りの名手に贈った書、絵画などの、今まで展示したことのない資料を公開しました。

生家前の中庭には、花で野口英世を描いた「野口英世花壇」を作りました。パンジー、ビオラ、日々草、ペチュニア、アスターで彩られた花壇は、来館者の写真撮影スポットの一つにもなりました。

「野口英世記念館ピンポイントガイド」では、学芸員が、平成27年にリニューアルした野口英世記念館の見どころや、野口英世の生涯と業績について、テーマを絞り、分かりやすくご案内しました。お客様の頷きながら見学をする様子が見られました。

生家前での「紙芝居で知る医学者・野口英世」は、野口英世の生涯を紙芝居で、地元の方言やイントネーションを使った表現でご紹介しました。子どもから大人まで、見て楽しみながら、野口英世を知っていただくことができました。

「野口英世だるま絵付け体験」では、野口英世を模した、野口英世記念館オリジナルの野口英世だるまに、絵の具で好きな色や文字を描き、想い想いの野口英世だるまを作成していただきました。

「ワークシート」を作成し、館内を見学して得た知識を確認する試みは、大人向けと子ども向けの二種類を準備しました。多くのお客様が、熱心に取り組んでいただきました。

「なりきり！英世博士」は、エントランスホールのコーナーに準備した白衣と口髭を、お客様に身につけていただき、野口英世になりきって記念撮影していただく試みです。ご家族全員で野口英世になりきるお客様もおられました。お客様のなかには、白衣のまま館内を見学し、野口英世博士になりきった気分で楽しんでおられました。

「アフターDC」の期間中は、月に一度、「野口英世記念館おもてなしデイ」を実施しました。

当日は、前述のいろいろな企画に加えて、来館されたお客様全員が参加できる「お楽しみ抽選会」や、野口英世記念館広報大使「ヒディ」とふくしまHAPPY隊の「八重たん」と一緒に写真を撮る撮影会を行いました。また、感染症が専門の記念会副理事長が、「サイエンストーク・感染症のおはなし」を行い、感染症について、映像を用いて、分かりやすくお話ししました。講話後は、参加者の質問や感染症予防などの疑問にお答えし、野口英世が挑んだ細菌や感染症の研究について関心を持っていただきました。

おもてなしディに来館して下さった
（右から）平賀恭浩さん、真希さん、駿希さん

体験してくださった
鵜殿靖さん、育代さんご夫妻（右）
草柳弘さん、千明さんご夫妻（左）

三年間に及んだ大型観光キャンペーン「プレDC」、「ふくしまDC」、「アフターDC」は、平成28年6月30日のクロージングセレモニーを持って終了しました。

「ふくしまDC」期間中は、野口英世記念館のリニューアルオープンもあって、以前より多くのお客様にご来館いただきました。多くの初めての企画に取り組み、お客様が自ら体験できる企画が大切だと改めて実感しました。また、近隣の観光施設と協力し、連携していくことで、お客様に提供できる企画の範囲が広がることもわかりました。

今後も「ふくしまDC」で行った取り組みを活かして、継続していくとともに、より多くのお客様に幾度も足を運んでいただける博物館を目指したいと思います。

ヒディ（野口英世記念館広報大使）と
八重たん（ふくしま HAPPY 隊）

# 第15回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」

## ～あなたに伝えたい想いがある～

作品を朗読する大賞受賞者の初澤みゆきさん

平成28年12月2日、第15回心の手紙コンテスト「母から子への手紙」受賞式が猪苗代町体験交流館学びいなにおいて行われました。

当日は、入賞者50名のうち、16名の受賞者が出席され、猪苗代町絆づくり実行委員会八子弥寿男委員長（公益財団法人野口英世記念会理事長）と同委員会副委員長小鮒良平氏より、大賞の初澤みゆきさん、準大賞の岡田美佐さん、日本郵便大賞の永末祐子さんはじめ、入賞の皆さんが表彰されました。なお今年は、心の手紙コンテスト15周年記念賞が設けられ、応募者最高年齢の佐々木キヨさん（98歳）の作品が選ばれました。当日はご家族が代理でご出席され、御本人様よりビデオレターが届きました。

今回も1423通という多数の感動的な手紙が全国のお母さん達から寄せられました。第一次選考会は、地元のお母さん達75名が10月15日に集まり、50編の作品を最終候補として選びました。11月1日と2日の最終選考会では、芥川賞作家の玄侑宗久さん、エッセイストの大石邦子さん、講談師の末利光さん、第一次選考委員代表（地元お母さん代表）の小林光子さんが、長時間に亘って話し合い、各賞を決定しました。

受賞式では、選考委員の先生方の講評や、受賞者のご自分の作品への思いが述べられました。また、表彰式後の懇親会では、猪苗代町長、猪苗代町教育長、選考委員の先生方、実行委員会のメンバーが、受賞者と楽しく懇談されました。

末利光さんの記念講演



**大賞　初澤みゆきさん**（栃木県）

「俺は、吃音で、二十四年間ずっと苦しんできたんだ。」今年の四月、お前の二十四歳の誕生日を目前にして、そう言われた時、頭が真っ白になった。生まれてからずっとぉ!?お前の産声は、高らかに、伸びやかに、母さんの耳に、確かに届いていたんだよ。

一体、どこで間違ったのだろう!?家族の前では、人一倍お喋りで、自己主張もしっかりするし、数日前に行った家電量販店では、大胆に価格交渉もして、大型テレビを見事に安く手に入れたのに。

とりあえず、今は聴くしかない……。そう思って、二十四年間の苦しみを黙って聴かせてもらった。簡単に、氣休めなんか言っちゃいけない。これは真剣勝負だと思ったよ。

話の最後、お前が「俺は、何としても二十代で、俺の中で絡まっているものを解きたいんだ。」と締めくくった時、あっ、この子は大丈夫だ!!と思った。根拠はない。でも、これは、産んだ者にしか分からない確信だ。

**準大賞　岡田美佐さん**（大阪府）

たとえば、あなたが五才の時。傘を持たさず遊びに行かせてしまったことを詫びた私に「だいじょうぶ。あめをよけて、はしってきたから。」と誇らしげに笑ってたよね。家の中にいた虫を小さな手のひらに包んでは、

「おそとでくらしてくぅだぁさぁい。」と窓からそっと逃がしてたよね。

中学生になった今も、基本姿勢は驚くほどそのまんま。つい先日もあなたの友達の家族から、理不尽とも取れるような話があったけど。喧嘩したくてうずうずしている私をなだめるかのように、

「何も言わなくていいよ。大丈夫やから。」って、ちょっと、一体どっちが親なの。

どうやら私は間違ってたみたい。思春期って極めて難しい時だと想像していたけど、あなたのそれは実に優しいものとして仕上がってるね。あなたがあなたのままで居られるように私にできることは『余計なことはしない』をすることだと肝に銘じておきますね。

賞状を受け取る準大賞の岡田 美佐さん

賞状を受け取る大賞の初澤みゆきさん

**日本郵便賞　永末祐子さん**（福岡県）

コブクロの「風見鶏」という歌を聴くと、思い出します。

小さなあなたが、空を見上げたので、その視線の先を追うと、風見鶏がいました。

公園の屋根の上に、直立不動の風見鶏。

他の子供達が、すべり台や、ままごとに、夢中になっているのに、あなたは、しばらくの間、それを眺めていました。

そして、土をはうカナヘビを追い、花を歩くてんとう虫を見つめ、木の幹に、へばりついたセミの抜け殻を、手に取りました。ついに、裸足になり、駆け出しました。

あなたは、自然と仲良しでした。ありふれた景色を、色とりどりの景色に変えてくれました。

あれから十数年。十七歳になりましたね。

私は、歌を聴きながら、心の中で、あの日の風見鶏に、話しかけます。

「道に迷っています。どうぞ、息子の道しるべをして下さい。」、と。

**15周年記念賞　佐々木キヨさん**（鹿児島県）

オカンは九十八になったよ。百近くまで命を授けて下さるお天とう様に感謝しながらも、あの世の道は遠ざかりきと念じるオカンです。

貴方が二年前、急な病で六十二才で他界してから、オカンはたった一人の命づなを失い、生きる希望も、力も、長生きする意味もわからなくなっていましたよ。

今は、「ゆりの郷」というグループホームで、皆さんに大事にされながら、お見舞いに来て下さる親戚や子や孫に励まされ、支えられて、命を全うしようと前向きに努めています。

貞進見えなくても美しい花を供えるよ。

食べなくてもおいしい物を供えるよ。

返事をしてくれなくても語り続けるよ。

世の習わしと知りつつも、帰り来ぬわが息子を見送った母心。あきらめきれないつらさ、はかなさを、青空眺め海を眺めてまぎらす。

一度でいい、「オカンご飯!!」と呼んだあの声が聞きたい。いつも貴方の冥福を祈りながら、楽しかった日々を思いうかべて暮らしますね。

佐々木キヨさん（15周年記念賞受賞者）から届いたビデオレター

表彰をうける日本郵便賞の永末祐子さん



特別寄稿

# 初めての猪苗代

## 第14回　母から子への手紙コンテスト　大賞受賞者

**武藤　恵美子**

私が野口英世のふるさと猪苗代にお邪魔したのは、ちょうど一年前になります。

初めての猪苗代には雪が沢山ありました。けれど、寒かったという印象は残っていません。

愛知県の名古屋から東海道新幹線に乗り、東京まで行き、東京から東北新幹線で郡山へ。途中、車窓にせまる富士山を見て大きく拍手したくなりました。私の母親は、昭和十五年生まれで、山形県の米沢市出身です。集団就職で愛知県に来る時に、この富士山を見たのだろうかとふと考えてみたりしました。

郡山からは、磐越西線に乗り換えて、目的地、「猪苗代」へ到着です。気づけば、足元から熱いくらいの暖房の風がふくらはぎに当たり、福島の厳しい冬を実感しました。

猪苗代の駅に着いて、うれしかったのは、気持ちがほっとゆるむ暖房室があったことです。土地のおばちゃんだろうと思われる三人が、中で楽しそうに話し込んでいました。

おばちゃん達の姿を見て、子供の頃、どこからかのもらいもののおかきの缶のフタに「北国の長い長い冬ごもり」と書いてあり、頭にほおかむりしたわらの雪ぐつをはいた人物の絵がついていたのを思い出しました。

こたつの中で、缶のフタを丁寧に開けたり、閉めたりしながら食べたおかき。おばちゃん達と絵の人物とが重なり、その頃の安心感を思い起こさせてくれました。

外にでると、かなりの雪が積もっていました。雪をとかすための水が道路に流れているのを見て、これからの季節は除雪の大変な時期になんだなと思いながら、つま先たちで観光案内所へと向かいました。

そこで英世記念館や、世界のガラス館のことなどを手短に教えてもらい、何はともあれ早速、英世記念館へと急ぎました。

リニューアルして間もない記念館は、透明感のあるエントランスの空間がとてもきれいで落ち着いた雰囲気の建物でした。美しいガラスの向こう側には、母シカの手紙が展示されていて、魂の願い、命そのもの叫びがひしひしと伝わってきました。立ち止まって、シカの手紙を読み終える頃には、あまりの迫力にのどが渇くほどで程でした。

息子を思う切実な母親の思いは、まだガラスの中で生き続けていると文字を見ながら感じました。

英世の生家では、私の父の実家と同じ匂いがしました。日本の家に息づいていたあの懐かしい生活の匂い。この匂いを忘れないように何度も息を吸い込みました。神棚があったので、手を合わせて、ここにご縁を結んで頂いたことをありがたく思っていますと心の中でつぶやきました。

二階では、英世ロボットの精巧な動きに見入ってしまい、あとはメリー夫人や英世の小柄な姿をざっと見るのが精一杯の時間となってし

まいました。

その夜はホテルリステル猪苗代に宿泊しご馳走を頂きました。ロビーには大きなクリスマスツリーが飾られていてとても華やかで、見ているだけで心が踊りました。ツリーの前で娘に写真を何枚かとってもらいました。

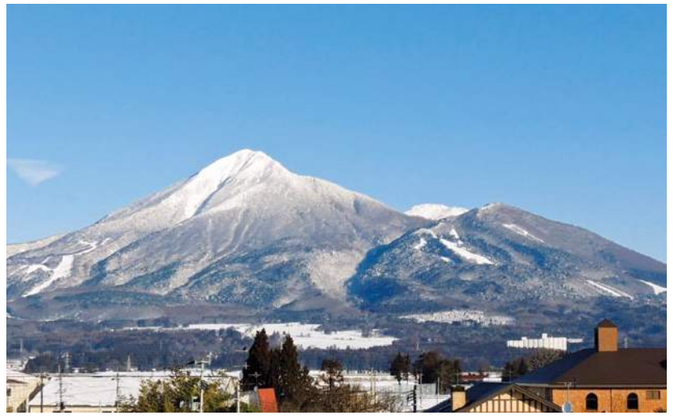
ホテルの露天風呂では冷たいカミソリのような風がビュービューと音を立てて、湯面に立ちのぼる湯気を一瞬のうちに天空へ連れ去っていました。英世が遠い外国の地で、命を終える時、古里猪苗代に吹いていたこの風を思い出すことはあったのだろうかと思いながら湯につかり風の音を聞いていました。

最近、財布の中の千円札を見ると猪苗代の温かな皆さんの顔が浮かんできます。それと忘れられないのは漬け物です。猪苗代で食べた漬け物の味は最高でした。本当においしかったです。

シカと英世博士のおかげで猪苗代の皆さんにお会いすることができて心よりうれしく思っています。北風は冷たく、雪も多く積もる猪苗代ですが、私の中ではとてもあたたかな町です。

昨年の受賞式場にて（左が武藤さん）

昨年の懇親会での武藤恵美子さん（右から３番目）



野口英世記念館から見える冬の磐梯山



# 野口英世記念館見学感想文コンテスト

野口英世記念館では平成26年度より「野口英世記念館見学感想文コンテスト」を始め、今年で３回目を迎えました。修学旅行や遠足など学校行事で、ご来館してくださった、たくさんの小中学生がそれぞれの思いを感想文として書いて送ってくださいました。最優秀賞と優秀賞の感想文をご紹介します。

## 入賞おめでとうございます

◇最優秀賞

福島県喜多方市立第一小学校　３年　阿部　遥花さん

埼玉県川島町立伊草小学校　６年　長谷川由桜さん

◇優秀賞

福島県喜多方市立第一小学校　３年　齋藤みそのさん

宮城県気仙沼市立鹿折小学校　６年　菅原　梨紅さん

宮城県気仙沼市立鹿折小学校　６年　内海　雄太さん

埼玉県川島町立伊草小学校　６年　秋山　侑希さん

祝 最優秀賞

## 「すごい！野口ひでよはかせ」

福島県喜多方市立第一小学校　３年

阿部（あべ）　遥花（はるか）　さん

5月19日に、遠足で、野口ひでよ記ねん館に行きました。

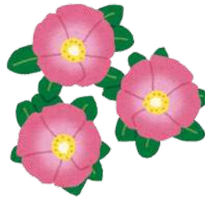
わたしは、野口ひでよさんは、千円さつにのっている人としか知りませんでした。そして、野口ひでよさんは、はかせで、たくさん、べん強したことが分かりました。

あと、子どもの時は、ひでよではなく、せいさくだったことも知りました。野口はかせはすごいです。おいしゃさんは、ふつうにびょういんで、しゅじゅつをやっている人だと思っていました。でも、かんじゃにとってはいのちのおん人なんですね。わたしはあまり思っていませんでしゃさんに感しゃします。

お母さんの手紙も心にのこりました。心をこめて、早く帰って来て、と何回も書いてありました。本当に心から野口ひでよさんを愛していることがつたわってきました。

わたしは、いろりで手をやけどしたことがないので野口さんの気持ちは分かりませんが、少し分かった気がします。

野口さんがいなければ、今がありませんでした。ありがとうございます。野口さんに感しゃします。



祝 最優秀賞

## 「野口英世」

埼玉県川島町立伊草小学校　６年

長谷川（はせがわ）　由桜（ゆら）　さん

私は、野口英世記念館を見学して心に残ったのは、野口英世の生家を見学したことです。私は出前授業を受けて、何があってもあきらめずにやり通した人だとわかったので、一生けん命に勉強したり、外国に行く前に柱にほった「志を得ざれば再びこの地を踏まず」

という柱を見てみたかったので、本当にみたときは、想像よりも感動しました。いろりに落ちて火傷したせいで左手がつかえなくなって人生が変わったと思います。そのせいで嫌な思いをしたり、くやしい思いをしたけれど、手術をして左手がなおったから医者になろうと決意できたんだと思います。貧しいくらしでも自分ができることをして、大人になっても、みんなが苦しんでいる病原菌をみつけ出して人々をたすけたのも、私だったらとちゅうで心が折れて投げ出してしまうかもしれません。それも小さい時からつらいことがあってもたえて、続けることができていたからだと思います。自分がその病気にかかってまでも人のためにたくさんの時間をついやして、研究をした、すばらしい人物だと思います。

私は野口英世記念館を見学してみて、出前授業で聞いていた話よりも、とても感動しました。人の為に研究を続けて、人の為に亡くなっていく、そんな学者、研究者はいないと思います。私は人の為に動いて、人の為に亡くなっていった野口英世の様な人間になりたいです。

## 優秀賞 「野口ひでよ記ねん館」

福島県喜多方市立第一小学校 3年
齋藤（さいとう） みその さん

わたしは、はじめて野口ひでよ記ねん館に行きました。野口ひでよさんが一さい半のときに左手におおやけどしちゃったけどいっぱいべんきょうしてえらい人になったんだなとはじめて知りました。わたしはもっと野口ひでよさんのことがしりたくなりました。でも黄ねつびょうでしんでしまったのがすごくざんねんでした。わたしは、もっと野口ひでよさんにいろいろなけんきゅうをしてほしかったです。それでもうすこしでもいいからびょうきをへらしてほしかったです。

## 優秀賞 「とても印象に残った野口英世記念館」

宮城県気仙沼市立鹿折小学校 6年
菅原（すがわら） 梨紅（りく） さん

修学旅行の二日目に、野口英世記念館に行きました。

入口の近くに、野口英世の生家があって、中には、一歳半の時に火傷した囲炉裏や、上京する時に、柱に刻んだ決意文等とても貴重な物が見られました。

野口英世記念館では、展示室や英世の素顔や英世の生涯等とても引き付けられるものがたくさんありました。私が一番印象にのこっているのは野口英世ロボットです。なぜそれが印象に残っているのかというと、とても本人にそっくりで、手の動き、目の動き、口の動きがとても繊細で、本物の人間がいるようでした。質問ができるボタンもあって、作った人達はとてもすごいと思いました。

次に印象に残っているのは、英世の素顔です。そこには英世が描いた、妻のメリー・ダージスの絵がかざってありました。とても美しい絵でした。母・シカが書いた、息子・英世に対する手紙もとても印象に残っています。英世に早く帰ってきてほしいと願う母・シカはあまり字を書けないのに息子のために字を練習してとても心を強く打たれました。そして、母、シカはとても頑張って息子に手紙を書いてすごいと思いました。

わたしは野口英世記念館に行って、とても貴重な体験ができたし、色々な物を見て、やっぱり野口英世はとても偉大な人だと改めて思いました。野口英世記念館に行って本当に良かったとおもいました。



## 優秀賞 「野口英世記念館を見学して」

宮城県気仙沼市立鹿折小学校 6年
内海（うつみ） 雄太（ゆうた） さん

見学に行く約一週間前には、わざわざ鹿折小学校まで、勉強会だけのために来ていただきありがとうございました。勉強会では、野口英世の生涯などについて、くわしい事を教えてもらい、野口英世記念館を見学しに行くのがよりいっそう楽しみになりました。

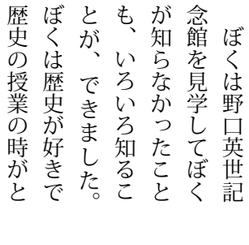
野口英世記念館を実際に見学した時には、野口英世の生家や母のシカからの手紙などを見ながら館内を見学させていただきました。野口英世の生家では、野口英世がやけどを負ったと言われる「いろり」や「床柱の決意」などを実際に見ることが出来ました。野口英世の生涯を元にされ、作られた動画もあり、勉強会でもあった生家をまじかで見られて良かったです。動画の方も細かくまとめられていてとても分かりやすくて良かったです。母のシカからの手紙では、母のシカは学校がなかったため、ひらがなが書けなかったのに、野口英世に手紙を書くためだけに頑張ってひらがなを練習し、手紙を書いたなど館内などを通してでしか分からなことを知ることができて良かったです。

館内には、沢山のみどころがあり、ひませず、館内を見てまわることが出来たので、とても良かったです。

実は、ぼくのお母さんもお父さんも修学旅行で福島の会津に行ったそうです。その話を聞いて野口英世は、どれだけの時が流れても野口英世記念館などで長い間展示されているということは、それだけ医学を発展させた人なんだなと改めてすごいなと思いました。

## 優秀賞 「野口英世記念館を見学して」

埼玉県川島町立伊草小学校 6年
秋山（あきやま） 侑希（ゆうき） さん



ぼくは野口英世記念館を見学してぼくが知らなかったことも、いろいろ知ることが、できました。ぼくは歴史が好きで歴史の授業の時がとても楽しみにしています。だけれども野口英世記念館で勉強をして、ぼくはもっともっと歴史を好きになりました。ぼくは野口英世記念館へ行ったら、一番最初に野口英世の生家にある囲炉裏がとくに見たかったので見ることができ、とてもうれしかったです。囲炉裏は野口英世が一歳半の時に火傷をした、場所を見ることができないと思うのでとてもいい経験ができました。もしもぼくが野口英世であったら、左手に火傷を負ってしまったら、ぼくは生きる道がなくなってしまうと思います。それでも諦めず、生き続ける野口英世にぼくはとても憧れました。千円札になるとてもすごい人だととても感じました。ぼくも将来は野口英世のような立派な人間になりたいです。他の人はやりたがらなかった蛇の毒の研究をしたり、黄熱病の研究をしたりする、とてもすごい、日本一の研究家だと思いました。

黄熱病で51歳の若さで死んでしまって、ぼくはもっと野口英世が長生きしていれば今の日本でも、分かっていない病気も分かったかもしれないと思いました。野口英世は、「わたしにはわからない」という一言を言い残して死んでしまったということで歴史人物大事典には書き込まれていました。

ぼくは福島へ行き、野口英世の事をしれてとてもよかったです。

# 出前授業に行きます！

**野口英世記念館では、修学旅行で野口英世記念館の見学を予定している小中学校へ、あるいは修学旅行の宿泊先へ、野口英世記念館の職員が出向いて、野口英世の生涯と業績を分かりやすくお話する出前授業を行っています。**

**平成28年度は68校で出前授業を行いました。いずれの学校でも、児童・生徒の皆さんが、熱心に話を聞いていただきました。たくさんいただいたお礼のお手紙の中から、11通を選んでご紹介します。**

### 宮城県東松島市立赤井南小学校　6年
### 伊藤（いとう）　遥（はるか）　さん

おいそがしいなか、猪苗代から出前授業に来ていただき、ありがとうございました。

野口英世のことをあまり知らない私たちに、45分間の間でたくさんのことをくわしく教えてくださったおかげで、名前と顔しか知らなかったけど、生き方や、そのために大事にしていたことや、どんなことを意識していたのかなど、いろいろなことがわかりました。野口英世はどれだけすばらしい人なのかがわかりました。いろいろで左手をやけどしたのは、わかっていたけど、その他のことは全然知らなくて、1番心に残ったのは、何事もあきらめず、努力して夢をかなえるためにとがんばっていた野口英世の話を聞いて、とても感動しました。

私も、夢をかなえるためには、もちろん努力してかなえたいし、それいがいの事にも努力してもりこえていきたいです。努力してもれなかったらもっと努力するし、もし、努力しても、むくわれなかったとしたら、そのときは、いつか自分に返ってくると信じたいです。野口英世のすばらしさを伝えてくださり本当にありがとうございました。

### 宮城県大崎市立西大崎小学校　6年
### 氏家（うじいえ）　夢叶（ゆうと）　さん

今日は、福島県からわざわざぼく達のためにおこしくださり、ありがとうございました。

野口英世は、有名というのはわかっていましたが、出前授業で教えてもらい、どういう人物かわかりました。英世はびんぼうで1才半の時にいろりに落ち左手がくっつき、貧しく病院にも行けないという、かわいそうな英世さんだと思いました。

自分は今でも有名な英世さんは才能があって、お金持っているようなイメージがありましたが、そのようではなかったのがビックリしました。努力、努力としていく英世さんはアメリカまで行って勉強を続け、最後にはノーベル賞の候補に上がるなんて、本当にすごいと思いました。

今日はありがとうございました。修学旅行が楽しみです。



### 宮城県大崎市立古川第一小学校　6年
### 鈴木（すずき）　花菜（はな）　さん

私が出前授業で、一番心に残った事は、野口英世が左手が使えなくて、いじめられても、医療関係の仕事につくことをあきらめずに勉強したことです。夢に向かって一生懸命努力しているのが、すごいなあと思いました。自分の左手が不自由で、いじめられたりしていたら、自分の夢もあきらめると思うし、学校に行けなくなると思います。

私は、美容師になるという夢を持っています。これから、どんな事があっても、野口英世のように出来る限り、努力していきたいと思います。また、美容師に関係ないことでも、どんなことでも全力で取り組んでいきたいです。そして野口英世みたいに夢をかなえて立派な大人になりたいです。

修学旅行では、出前授業のスライドで見た、野口英世のお母さんが書いた手紙を見たいです。また、野口英世のロボットも気になるので見たいです。班の自主研修の時に野口英世青春館や野口英世青春広場にも行きたいなあと思いました。出前授業で聞いたり、見たりした事を自主研修や野口英世記念館に行って見学する時に、役立てたいです。

そして、改めて夢をかなえるたいへんさと、夢はすごく努力をしないとたどりつけないものだという事を感じました

### 宮城県仙台市立桜丘小学校　6年
### 鈴木（すずき）　瑠羽香（るうか）　さん

昨日は、出前授業をありがとうございました。私は、総合での調べ学習で、野口英世のことを調べました。でも、調べる前は、千円札の人としか思っていませんでした。

でも、調べてみると、医者だったと知って、少しびっくりしました。でも、野口英世のことをしればしるほど、おもしろいと思いました。野口英世は、黄熱病をはじめ、色々な、びょうきを治していることが、分かりました。野口英世は、すごい人だと思いました。理由は、人を助けるために、自分をぎせいにして、自分の命よりも、人の命を考えているという所は、まねできないなと思いました。なので、自分もそのような人間になれるようにしたいです。野口英世は、左手をやけどして手がひらけなくて、友達から、笑われていたというのを、本で読みました。それでも野口英世は、あきらめずに、がんばって生きているという所がすごいと思います。そのあと、自分の手を治してもらって、医学はすごいと思って医学の道に進んだと聞きました。それだけ自分の手が治って、医学は、すごいと思える心がすごいと思いながら、話を聞いていました。でも、野口英世は、日本では、思うようにできませんでした、と聞き、私は、「へ～そうだったんだ。」と思いました。でも、アメリカに行って、自分の研究場をつくって、しっかりと自分の夢をおっている人だったんだと思いました。私は、野口英世のように、自分の夢にむかってがんばりたいと思います。本当にありがとうございました。修学旅行の2日間で会津のこと、野口英世のことをもっと知って帰りたいと思います。ありがとうございました。

## 埼玉県川島町立伊草小学校　6年
## 長谷川（はせがわ）　由桜（ゆら）さん

9月27日は、お忙しい中、出前授業にきてくださり、ありがとうございました。私は、野口英世のことは前から知っていたけれど、くわしくは知りませんでした。野口英世は、本当は少し違った名前だったり、なぜ左手をやけどしてしまったかなどは知らなかったので聞いていて楽しかったです。一歳半の時に、野口英世は、いろりに手をいれてやけどをしてしまって、使えなくなってしまったと聞きました。もし自分が使えなくなってしまったら、不便だし、そこでお金がなくて病院に連れて行けなかったお父さんやお母さんも、つらかっただろうと思いました。

また、自分だったら六年間も同じクラスの子たちにいじめられたりしたら、学校に行かなくなってしまうかもしれません。それでもめげずに勉強にはげんでいた野口英世は、本当にすごいし、強いなと思います。それが、あきらめずに研究をして、いまでも残るような、すごい賞を取れた理由の一つなのかと思いました。

自分の命を無くしてまで、人々を救おうとした野口英世はすごい人なんだとわかりました。今日は本当にありがとうございました。説明も、スクリーンの画像などを見せながら説明してくれたので、とてもわかりやすかったです。また、今度野口英世記念館にいくときにも、よろしくお願いします。

## 宮城県気仙沼市立面瀬小学校　6年
## 藤澤（ふじさわ）　天彩（のあ）さん

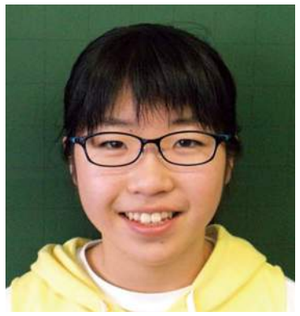
今日は、野口英世のことをお話しして下さって、ありがとうございます。おかげでいろいろなことが分かりました。中でも心に残っているのは、柱に「志を得ざれば再びこの地をふまず」とほりつけたことです。そこまでして、目標を達成しようとするなんて、私にはとてもできないと思います。そんな目標を立てられる野口英世は、すごいなあと思いました。もう一つ心に残っていることがあります。それは、野口英世がノーベル賞の有力な候補者だったということです。ノーベル賞をとることは、とても難しいことだけど、その候補者になれた、野口英世はたくさん努力したんだなあと感動しました。そんな野口英世を、もっと知りたくなりました。修学旅行で野口英世記念館に行けるので、楽しみです。

今日は本当にありがとうございました。

## 宮城県塩竈市立月見ヶ丘小学校　6年
## 小野寺（おのでら）　舞（まい）さん

このあいだは、お話をするためにわざわざ月見ヶ丘小学校に来ていただきありがとうございました。野口英世の事は、あらあら知っていたつもりでしたが、出前授業を聞いて、自分が知っていたことは、野口英世の歴史の中のほんのちょっとでした。なので、今回、お話をおうかがいでき、とてもうれしく思っています。小さいころに、いじめをうけていたのに、その事にくじけず生きていくそのすがたに、たいへん感動しました。大人になってからも、自分の力を発揮し、いろいろなことをなしとげていくすがたは、どうどうとしているように見えました。幼少時代から大人までの生涯をいろいろ知ることができました。本当にありがとうございました。

## 宮城県栗原市立築館小学校　6年
## 髙橋（たかはし）　美宇（みう）さん



いそがしい中、出前授業で大変分りやすい説明を細く教えていただき、ありがとうございました。

野口英世さんの母（シカ）の手紙は、本当に感動しました。

生家の柱に刻まれた、「志を得ざれば再び此地を踏まず」という決心は、大きな夢を持っていたんだ、と改めて感じることができました。

自分が行っていた研究で亡くなってしまいましたが、その病気にかかる人がいなくなったのは、野口英世さんのおかげだと感じました。

## 新潟県加茂市立石川小学校　6年
## 髙野（たかの）　未來（みらい）さん

出前授業で、野口英世について教えていただきありがとうございました。私は、野口英世は初め、科学者だと思っていました。でも、すごい医学者で、しかも家は、昔は貧ぼうだったのがすごくおどろきました。そして、やけどで何もできぬまま、左手がグーのままになり、いじめがおき、それでもくじけない英世がすごかったです。そこから、いだいな医学者になった英世がすごいし、そんけいしようと思えました。私は、これから「にんたい」をむねにがんばりたいです。

## 宮城県大和町立小野小学校　6年
## 高松（たかまつ）　英里（えり）さん

今日は、野口英世のことを教えていただきありがとうございました。私は、ノーベル賞のノーベルは人の名前だったり、ダイナマイトは、いろんな人たちに活用されていたことなどを知って、すごく勉強になりました。私の心の中に1番残ったことは、1さい半の時に左手をいろりでやけどをし、小学校でいじめられても負けずに、学校へ行っていたことや、黄熱病を研究していた自分が、その病気にかかって亡くなってしまったことです。自分が知りたかったことが、新たに分かってよかったです。

本当にありがとうございました。

## 宮城県富谷市立成田東小学校　6年
## 人首（ひとかべ）　華子（かこ）さん

野口英世さんの事をおしえてくれて、ありがとうございました。左手が使えなかった野口さんですが、友だちや家族に支えられ、とても、ゆうめいな学者になったのが、すごいと思いました。いつでも、支えてくれた友人がいたから良かったのかな・・・！

本当に勉強を楽しんでいたから、すごい学者になれたと思います。今までは、千円札にうつっているとしか思いませんでした。

今回、おしえてもらって、野口さんのすばらしさが分かりました。野口さんに対する考えがすごく変わりました。

ありがとうございました。

## 平成28年度に出前授業を行った小中学校は次の通りです。

（かっこ内は出前授業を行った宿泊先ホテル）

**福島県**

小野町立小野新町小学校
郡山市立芳賀小学校
田村市立古道小学校
福島市立金谷川小学校
福島市立鎌田小学校
福島市立北沢又小学校
福島市立野田小学校

**宮城県**

石巻市立開北小学校
（東山温泉・千代滝）
石巻市立中津山第二小学校
岩沼市立岩沼南小学校
大崎市立岩出山小学校
（東山温泉・千代滝）
大崎市立西大崎小学校
大崎市立古川第一小学校
加美町立中新田小学校
気仙沼市立広原小学校
気仙沼市立面瀬小学校
気仙沼市立鹿折小学校
気仙沼市立月立小学校
（東山温泉・原瀧）
気仙沼市立津谷小学校
栗原市立玉沢小学校
（東山温泉・千代滝）
蔵王町立円田小学校
塩竈市立月見ヶ丘小学校
色麻町立色麻小学校
東松島市立矢本東小学校
七ヶ浜町立汐見小学校
七ヶ浜町立松ヶ浜小学校
柴田町立船迫小学校
白石市立大鷹沢小学校
白石市立越河小学校
白石市立斎川小学校
仙台市立沖野東小学校
仙台市立折立小学校
仙台市立片平丁小学校
仙台市立桜丘小学校
仙台市立高森東小学校
仙台市立鶴谷東小学校
仙台市立長町小学校
仙台市立南光台東小学校
仙台市立袋原小学校
仙台市立連坊小路小学校
仙台市立八乙女小学校
仙台市立若林小学校
大和町立小野小学校
富谷町立明石台小学校
富谷町立富ヶ丘小学校
富谷町立成田東小学校
東松島市立赤井南小学校
東松島市立鳴瀬桜華小学校
（グランドサンピア猪苗
代リゾートホテル）
松島町立松島第一小学校
松島市立松島第二小学校
（東山温泉・新滝）
美里町立不動堂小学校
南三陸町立名足小学校
山元町立山下第一小学校
利府町立青山小学校

**新潟県**

加茂市立石川小学校
佐渡市立真野小学校
三条市立裏館小学校
燕市立燕南小学校
燕市立分水小学校
新潟市立岩室小学校

**埼玉県**

川島町立伊草小学校
草加市立草加小学校
草加市立氷川小学校

**東京都**

江戸川区立新堀小学校
杉並区立高円寺中学校
（北塩原村自然環境活用
センター）
品川区立荏原第六中学校
品川区立富士見台中学校

福島県田村市立古道小学校の出前授業の様子

出前授業の後で野口英世の銅像を囲んで
古道小学校の 4,5,6 年生のみなさん



## 2016年度の受け入れ資料

**○野口博士の助手ウィリアム氏インタビュー関連資料**
（東京都・永吉昭一氏）
（神奈川県・岩田芳晴氏）

**○小林栄旧宅見取図**
（埼玉県・大坪俊治氏、佑子氏）

小林栄旧宅の改修工事に伴い、記録のため旧宅の見取図を提供いただいた。また記念会において現況の平面図を採取させていただいた。

**○羽鳥重郎関連資料**（群馬県・富士見商工会）
**○忍耐の書（複製）**（福島県・遠藤誠一氏）
**○東京歯科大学同窓会創立120周年記念講演会DVD**
（千葉県・吉澤信夫氏）
**○色紙水墨画・書籍**（静岡県・伊藤満子氏）
**○オリジナルフレーム切手「野口英世」**（購入）
**○パプラール関係資料**
（東京都・株式会社東洋厚生製薬所）
**○新聞『週刊NY生活』**（福島県・安斎栄孝氏）
**○地方自治法施行60周年記念貨幣セット**（購入）
**○『野口英世の生家を訪れて』**
（埼玉県・比留間隆敏氏）
**○論考「野口英世博士の忌日によせて」**
（新潟県・青山清道氏）
**○二瓶とめ関係資料**（東京都・金子秀昌氏）
**○野口英世アフリカ賞紹介DVD**
（東京都・内閣府野口英世アフリカ賞担当室）

**○マチュピチュ村ピンバッヂ**
（ペルー・ダビ・ガヨソ・ガルシア氏）

右より３人目　ガルシア・マチュピチュ村長
右より２人目　初代マチュピチュ村長野内与吉氏子孫の
野内サセル良郎氏

**○ペルー移民関係資料（コピー）**
（齋藤光男氏・清子氏）

野口英世が一九一七年にペルーを訪れた際に創立間もない福島クラブ（ペルー福島県人会）が主催となり、歓迎会を開いたことを示す資料。

**○猪苗代小学校沿革誌（部分・コピー）**
（栃木県・那須塩原市教育部委員会とようら公民館）

小林栄の経歴を記す資料。小林栄が師範学校に入学する以前の明治９年３月から10月まで「雇」として猪苗代小学校にいたことを示す資料。
（東京都・五十嵐竹雨氏）

**○八子弥寿平宛エクスタイン礼状（コピー）**
（福島県・八子弥寿男氏）

**○新聞記事「野口英世をめぐる人々」（コピー）**
（福島県・小林光子氏）
**○ガーナ野口英世庭園画像**（東京都・飯山賢治氏）
**○二瓶イヌ画像**（埼玉県・根岸実枝氏）

二瓶イヌさん 86 歳の時の写真
イヌさんは、記念館のためにと草むしりを
してくださっていました。

**○鳥飼京蔵宛野口英世書簡関連資料（コピー）**
（鳥取県・中嶋二三雄氏）

本年も多くの資料寄贈・情報提供をいただきました。今後これらの資料を研究・展示に活用していきたいと思います。

寄贈・情報提供いただきましたみなさまに、この場を借りて御礼申し上げます。

今後も資料などの情報がありましたら、ご一報いただきたくお願いいたします。

# 館内音声ガイド（無料）を導入しました

野口英世記念館では、無料Ｗｉ－Ｆｉの環境などの整備と、おもてなし企画として新たに、お客様が無料で楽しめる館内音声ガイドを導入しました。

お手持ちのスマートフォンなどの端末を使い、音声での解説を聞きながら見学することができます。館内28か所の展示で日本語と英語の解説をお聞きいただけます。

お客様には、館内をスムーズにご見学いただくだけでなく、野口英世が生きた時代をより正確にお伝えします。文字だけでは伝えきれないエピソードを語ることで、展示資料の持つ魅力をより深く体験することができます。

また、外国のお客様には、質の高い母国語のナレーションで、ご案内することができます。英語圏以外のお客様には、台湾語、中国語、韓国語のパンフレットをご用意し、ご案内しています。

今後、お客様のご意見、ご要望をお聞きしながら、コンテンツの充実に努めて参ります。

国内外のお客様に野口英世について理解を深めていただくとともに、より印象、記憶に残る施設となるよう努めていきます。

また、野口英世を知らない世代、知っている年代のお客様それぞれに楽しんでいただくことが野口英世と野口英世記念館を未来へ伝えることにつながると考えています。

ご来館いただき、ぜひ体感してください。

音声ガイドを利用している様子

◀「英世の生涯」「東京時代」では「清作」から「英世」に改名したエピソードを音声ガイドでご紹介しています。

「素顔の英世」コーナーでは、▶英世のプライベートをいっそう知ることができます。

▲音声ガイドの場所は、ヒディが目印です。



## 平成28年度　主な行事

平成28年
4月1日～6月30日　企画展「初公開資料展　新資料に見る野口英世」
4月1日　野口英世記念会報第61号刊行
4月2日　「福が満開、福のしま」福島観光キャンペーン2016 於猪苗代駅
4月4日　東北観光シンポジウム　於仙台国際センター
4月～6月　ふくしまアフターデスティネーションキャンペーン
4月21日　特別企画　館内イベント　ピンポイントガイドツアー「ふるさと大好き59市町村応援プロジェクトいなわしろフォーラム」　於至誠館
4月22日　「ふるさと大好き59市町村応援プロジェクト植樹式」　於生家前
4月24日　地方自治法施行60周年記念貨幣発行受付
4月25日　ふくしまアフターデスティネーションキャンペーン
5月1日　特別企画「野口英世記念館おもてなしデイ」
5月3日～4日　第1回理事会（書面審議）
5月4日　ゴールデンウィークイベント
5月5日　紙芝居　なりきり英世撮影会
5月7日　ゴールデンウィークイベント
5月11日　紙芝居　野口英世だるまの絵付け体験
5月17日　なりきり英世撮影会
5月21日～22日　ゴールデンウィークイベント
5月21日　こどもの日　餅つき大会　なりきり英世撮影会
5月21日　野口英世博士顕彰記念中学校球技大会
5月28日　ふるさと切手発売「地方自治法施行60周年記念シリーズ福島県」発行
5月29日　野口英世記念館ＰＲテレビ設置　於猪苗代駅
6月4日　ご当地キャラこども夢フェスタinしらかわ2016 於白河駅前小峰通り
6月18日、10月8日　お座敷列車「ふるさと」で行く！呑んべぇ会津地酒列車の旅 於猪苗代駅
6月19日　第88回野口英世博士命日祭　於生家碑前
6月26日　第1回資金運用委員会
6月27日　ふくしまアフターデスティネーションキャンペーン
7月13日～15日　特別企画「野口英世記念館おもてなしデイ」
7月30日　第1回評議員会
8月6日　ふくしまアフターデスティネーションキャンペーン
8月6日、20日　特別企画「野口英世記念館おもてなしデイ」
8月9日　応急手当推進事業所に認定
9月9日～24日　猪苗代中学校　第2学年　企業実習
9月13日　第31回野口英世杯ゲートボール大会
9月17日～25日　第54回奨学生懇親会　於レイクサイドホテルみなとや
9月20日　野口英世キッズサマーセミナー
9月24日～25日　救世観音祭礼　於観音堂前
10月6日　生誕140周年記念野口英世記念館おでかけ展示「会津が生んだ世界の医学者・野口英世の生涯」　於いらんしょ
10月8日～10日　野口英世博士顕彰記念小中学校体育祭
10月9日～11月23日　9月特別おもてなし企画　ゆるキャラ「ヒディ」野口英世博士になりきり撮影会、「探検、発見野口英世」ワークシート
10月10日～11月23日　福島民報セミナー　於至誠館
10月14日～16日　ハイウェイフェスタとうほく2016　於仙台勾当台公園
10月18日～20日　第33回野口英世博士顕彰記念小中学校音楽祭
10月23日　特別おもてなし企画　なりきり英世撮影会
11月5日　第62回菊の祭典　二本松菊人形　記念館ブース出展
11月9日　会津フェスタ2016出展　於越谷レイクタウン
11月16日　猪苗代高校就業体験インターンシップ
11月17日　猪苗代湖ハーフマラソンＰＲブース出展
11月25日～27日　第59回野口英世記念医学賞授賞式　於至誠館
12月4日　第140回野口英世博士誕生祭
野口英世フェアパネル出展　於横浜市長浜ホール
第2回資金運用委員会
会津フェスタ2016出展　於イオンつくば
第15回「母から子への手紙コンテスト」表彰式

## 平成28年度　主な行事

12月22日～　野口英世記念館ＰＲパネル設置　於レイクサイド磐光
平成29年
1月10日　団子さし　於野口英世生家
1月31日　第3回「野口英世記念館見学感想文コンテスト」受賞者発表
2月7日　節分豆まき　於野口英世生家
2月13日　野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会
3月4日　第3回資金運用委員会
3月20日　第3回理事会
第2回評議員会

## 平成29年度　主な行事予定

平成29年
4月1日　野口英世記念会報第62号刊行
4月1日～　テーマ「野口英世　医学者への階段」開催
5月　こどもの日　餅つき大会
5月21日　第89回野口英世博士命日祭
5月　野口英世博士顕彰記念中学校球技大会
8月9日　救世観音祭礼
8月　第55回奨学生懇親会
8日　第32回野口英世杯ゲートボール大会
10月　野口英世博士顕彰記念小中学校音楽祭
11月7日　第60回野口英世記念医学賞授賞式
11月9日　第141回野口英世博士誕生祭
12月　野口英世博士顕彰記念少年科学賞授賞式
平成30年　第16回「母から子への手紙コンテスト」表彰式
1月　団子さし
2月　節分豆まき
2月　野口英世博士顕彰記念小学校スキー大会

平成29年度テーマ展示

# 野口英世　医学者への階段

時期　平成29年4月1日より
会場　野口英世記念館　1階展示室

医術開業試験合格記念写真

１８９２年（明治25）秋、野口英世は左手の手術を受けました。医学を目指すきっかけとなり英世の生涯を変える転機になりました。その5年後には医術開業試験に合格し、医師の資格を得ます。
英世は医学の道に進むため懸命に努力をします。また多くの人に出会い活路を見いだしていきます。
英世が医学の志を立て成長していく5年間を紹介いたします。

年度中、他のテーマ展示を行うことがあります。開催内容につきましては野口英世記念館ホームページをご確認ください。

公益財団法人野口英世記念会

# 野口英世記念館案内

**【設　立】**

昭和14年5月21日　開館
昭和29年　福島県第1号登録博物館

**【沿　革】**

1928年（昭和3）5月21日野口英世博士が西アフリカで殉職したのち、日本工業倶楽部での追悼会後に、「野口英世博士記念会」を設立する話がまとまった。

記念会は、翌年に生家の保存と二つの記念碑を建立、1938年（昭和13）には、文部大臣より財団法人の設立が許可され、その翌年の博士命日には念願の「野口英世記念館」を開館した。

2013年（平成25）4月、公益財団法人に移行し、2015年（平成27）4月には、新展示館をリニューアルオープンした。

本館は世界的医学者・細菌学者として知られる野口英世博士の不朽の偉勲と、その努力精励の一生を永遠に記念するため、生家を保存し、遺品等を展示公開している。

**《ご利用案内》**

**開館時間**
4月～10月
午前9時～午後5時30分
11月～3月
午前9時～午後4時30分
ただし最終入館は閉館30分前まで

**休館日**
年末年始

**入館料金**
○個人料金

| | |
|---|---|
| 大人 | 600円 |
| こども（小中学生） | 300円 |

○団体料金（20名以上）

| | |
|---|---|
| 大人 | 550円 |
| こども | 250円 |

○学生団体（学校引率）

| | |
|---|---|
| 小中学生 | 250円 |
| 大学・高校・各種学校 | 400円 |

**お問い合わせ**
福島県耶麻郡猪苗代町三ツ和字前田八一
電話　0242（65）2319
ホームページ
http://www.noguchihideyo.or.jp


**野口英世記念会報　第62号**
**公益財団法人野口英世記念会**

発行日　2017年4月1日
発行人　八子　弥寿男
編集人　森田　鉄平・五十嵐　上枝

〒969－3284
福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81
公益財団法人野口英世記念会
電話　0242（85）7867
FAX 0242（23）7122
E-mail office@noguchihideyo.or.jp


# 寄付のお願い

日頃より公益財団法人野口英世記念会の事業にご理解、ご支援を頂きまして、心より感謝申し上げます。

野口英世記念館は平成27年4月1日にリニューアルいたしました。野口英世の生涯と業績の展示をわかりやすく一新するとともに、野口英世が挑んだ細菌の世界を、ゲームやクイズで体験していただくコーナーを新設しました。多くのお客様に是非一度ご来館いただきたく、お待ち申しております。

この度の新展示館のオープンを機会に、野口英世の生涯と業績をより多くの人に広く知っていただくため、職員一同一層の努力をいたします。

つきましては、皆様には野口英世記念会の活動に重ねてご理解とご支援を頂き、ご寄付を賜りますようお願いもうしあげます。

公益財団法人野口英世記念会

## 寄付の申込方法

- 「寄付申込書」に必要事項をご記入いただき、事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。お申し込みは随時受付けます。
- お申し込みをいただきましたら、野口英世記念会から郵便振込用紙をお送りします。振込手数料は野口英世記念会が負担します。
- 寄付金の額は、一口3,000円でお願いします。
- ご寄付いただいた寄付金は税法上の優遇措置として「所得控除」の対象となります。寄付金の額から2,000円を引いた額を当該年度の所得から控除できます。ただし、年間総所得額の40%が限度です。
- ご寄付の特典については、ホームページをご覧ください。

## 寄　付　申　込　書

寄付金額　　金　　円

| | |
|---|---|
| ふりがな | |
| 氏　名 | 印 |
| 住　所 | 〒 |
| 電話番号 | |
| E-mail | @ |

◎ ご記入いただきました寄付申込書は、下記事務局まで郵便、FAXまたはE-mailでお送り下さい。


事務局
公益財団法人 野口英世記念会
〒969-3284　福島県耶麻郡猪苗代町大字三ツ和字前田81番地
TEL:0242-85-7867
FAX:0242-23-7122
E-mail:office@noguchihideyo.or.jp

公益財団法人 野口英世記念会